

条里制水田想定地

県立太田高等特別支援学校普通科棟（重複障害）
増築建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

群 馬 県 教 育 委 員 会

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

条里制水田想定地

県立太田高等特別支援学校普通科棟（重複障害）
増築建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

群馬県教育委員会
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

群馬県教育委員会は、平成29年度末の「第2期群馬県特別支援教育推進」に基づき、重複障害者に対応した群馬県立太田高等特別支援学校の校舎増築を計画しました。当該校舎の建設は平成30年度に実施され、すでに平成31年3月4日に竣工し、新たな教育の場として活用されております。

この増設棟建設予定地は、周知の遺跡である「条里制水田想定地」内に在ることから、群馬県教育委員会の調整を経て、当事業団が平成30年6月に発掘調査を実施いたしました。調査区は現代の圃場整備により大きく削平されており、遺構の遺存状態は必ずしも良好とは言い難いものでした。また、遺跡名に冠した律令期の条里制水田に係わる遺構を確認することもできませんでした。しかし、奈良・平安時代の竪穴建物や土坑、井戸、中近世の土坑や溝などの遺構を確認、調査することができました。このたび、その調査成果を本書にまとめ、上梓するはこびとなりました。

ここに発掘調査から報告書作成まで、群馬県教育委員会管理課、群馬県教育委員会文化財保護課、太田市教育委員会、群馬県立太田高等特別支援学校等ほか、関係機関並びに関係者の皆様に多大なご尽力を賜りました。衷心より感謝申し上げる次第です。そして、本報告書が地域の歴史を知るうえで広く活用されますことを願い、序といたします。

令和2年2月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 中野三智男

例　　言

- 1 本書は、平成30年度の群馬県立太田高等特別支援学校普通科棟(重複障害)増築整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査の成果をまとめた、条里制水田想定地(じょうりせいすいいでんそうていち)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 条里制水田想定地は、群馬県太田市藤阿久町12-1番地に所在する。
- 3 事業主体は群馬県教育委員会管理課である。
- 4 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
- 5 発掘調査の期間と体制は次の通りである。
調査期間 平成30年6月1日～平成30年6月30日(履行期間：平成30年5月1日～平成30年8月31日)
調査担当 調査部調査1課 専門調査役 間庭 稔
遺跡掘削工事請負：技研コンサル株式会社
委託 地上測量：技研コンサル株式会社
- 6 整理事業の期間と体制は次の通りである。
整理期間 令和元年11月1日～令和元年12月31日(履行期間：令和元年11月1日～令和2年2月29日)
整理担当 資料部資料2課 専門調査役 石守 晃
- 7 本書作成の担当者は次の通りである。
編集 石守 晃
デジタル編集 齊田智彦
遺物観察 土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役) 陶磁器：矢口裕之(資料部資料1課長)
石器・石製品：津島秀章(資料部資料2課長)
遺物写真撮影 津島秀章・石守 晃
- 8 発掘調査諸資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 9 石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会会員)に依頼した。
- 10 発掘調査及び本書作成に当たり諸氏、機関よりご協力、ご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表します。
太田市教育委員会、群馬県教育委員会管理課、群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県立太田高等特別支援学校

凡　例

- 1 条里制水田想定地の遺構平面図は世界測地系国家座標(座標第IX系)を用いて測量した。遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向角は $+0^{\circ} 16' 52.91''$ である。
- 2 遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を示している。
- 3 遺構の方位は、座標北を基準として主軸角度等の傾きを計測した。
- 4 遺構平・断面図の縮尺は、原則として以下を使用した。但し遺構によっては異なる縮尺を用いたものもある。
竪穴建物 1/60、土坑 1/40、井戸 1/40、溝(平面) 1/100、(断面) 1/50
- 5 遺物図の縮尺は以下の通りである。
土器・陶磁器 1 / 2、 石器・石製品 1 / 2
- 6 土器・陶磁器、石器・石製品観察表計測の単位はcmである。また、重量の単位はgである。
- 7 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。
- 8 図中で使用した出土遺物マークは、以下のことを示す。
土器・陶磁器 ● 石器・石製品 ▲
- 9 本書では必要に応じて、浅間B軽石(As-B)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP)、浅間大窪沢軽石(As-OK)、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)、始良Tnテフラ(AT)などの主要テフラを略号のみで表記した。
- 10 土層や土器の色調觀察は、原則として農林水産省農林水産技術会議監修、財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 11 第1図は「国土地理院『宇都宮』地勢図200,000」、第2図・第5図・第6図は「国土地理院電子地形図25,000」を使用した。

目 次

序

例言

凡例

目次

第1章 条里制水田想定地の

発掘調査とその経過 ······ 1

第1節 調査に至る経過 ······ 1

1 群馬県立太田高等特別支援学校 ······ 1

2 重複障害者に対応した校舎増築計画 ······ 1

3 発掘調査に至る経過 ······ 1

① 埋蔵文化財に係る協議 ······ 1

② 確認調査 ······ 1

③ 発掘調査に至る経過 ······ 2

第2節 調査経過 ······ 4

第3節 調査の方法 ······ 5

1 遺跡略号 ······ 5

2 位置の表示 ······ 5

3 発掘調査の方法 ······ 5

(1) 掘削 ······ 5

(2) 記録 ······ 5

4 基本土層 ······ 5

第2章 条里制水田想定地を廻る環境 ······ 7

第1節 地理的・地質的環境 ······ 7

1 地理的環境 ······ 7

2 地質的環境 ······ 7

第2節 歴史的環境 ······ 9

1 旧石器時代 ······ 9

2 縄文時代 ······ 9

3 弥生時代 ······ 9

4 古墳時代 ······ 9

5 奈良・平安時代 ······ 9

6 中世 ······ 10

7 近世 ······ 11

第3章 発見された遺構と遺物 ······ 14

第1節 遺構と遺物 ······ 14

1 遺構の概要 ······ 14

2 1号竪穴建物 ······ 15

3 土坑 ······ 16

4 井戸 ······ 19

5 1号溝 ······ 20

6 2号溝 ······ 20

7 3・4・5号溝 ······ 21

8 6号溝 ······ 23

9 遺構外出土遺物 ······ 24

第2節 まとめ ······ 24

1 調査のまとめ ······ 24

2 条里遺構と歴史的推移 ······ 24

挿図目次

第1図	条里制水田整定地位位置図その1	2	第9図	1～8号土坑	17
第2図	条里制水田整定地位位置図その2	3	第10図	9～13A・B号土坑と13A・B号土坑出土遺物	18
第3図	条里制水田整定地の確認調査	4	第11図	1・2号井戸と1号井戸出土遺物	19
第4図	基本上解説。旧石器確認トレンチ図	6	第12図	1号溝(下)と調査区周辺地質図(上)	20
第5図	条里制水田整定地周辺地質図	8	第13図	2号溝	21
第6図	条里制水田整定地周辺道路分布図	10	第14図	3・4・5号溝	22
第7図	調査区全体図	14	第15図	6号溝	23
第8図	1号窓穴建物と出土遺物	15	第16図	道構外出土遺物	24

表 目 次

第1表	周辺道路一覧	12	第5表	溝一覧	23
第2表	検出遺構数量	14	第6表	遺物觀察表	25
第3表	土坑一覧	16	第7表	古墳・平安時代土器類非掲載遺物集計表	25
第4表	井戸一覧	19	第8表	中・近世陶磁器類非掲載遺物集計表	26

写真目次

P L. 1	1 調査区全景		P L. 4	1 12号土坑A-A'上層断面	
	2 1号窓穴建物 A-A'上層断面			5 11・12号土坑全景	
	3 1号窓穴建物出土遺物			6 13A・B号土坑全景	
	4 1号窓穴建物全景			7 1号井戸A-A'上層断面	
	5 1号窓穴建物作業風景			8 2号井戸全景	
P L. 2	1 1号土坑全景		P L. 4	1 1～6号溝全景	
	2 2号土坑全景			2 1・2号溝全景	
	3 3・5号土坑A-A'上層断面			3 2号溝全景	
	4 3・5号土坑全景		P L. 5	1 3・4号溝A-A'上層断面	
	5 4号土坑全景			2 5号溝D-D'上層断面	
	6 6号土坑全景			3 3・4・5号溝全景	
	7 7号土坑全景			4 6号溝全景	
	8 8号土坑全景			5 6号溝A-A'上層断面	
P L. 3	1 9号土坑全景			6 3・4・5号溝作業風景	
	2 10号土坑全景		P L. 6	出土遺物	
	3 11号土坑A-A'上層断面				

第1章 条里制水田想定地の発掘調査とその経過

第1節 調査に至る経過

1 群馬県立太田高等特別支援学校

群馬県立太田高等特別支援学校は太田市市街地の南西部、同市藤阿久町に所在する。同校は普通科と産業科の2科を有し、「障害の状態や特性等に応じた教育により、生徒一人ひとりの能力や適性を最大限に伸長させると共に、社会参加と自立に必要な知識、技能や態度を育成し、「生きる力」を身につけた心豊かなたくましい社会人の育成を図ることを目標としている。令和元年度(2019.4~2020.3)の生徒数は120名である。

群馬県立太田高等特別支援学校は昭和62(1987)年4月に産業科・高等部単独の「群馬県立高等養護学校」として開校したが、校名は平成9(1997)年4月に「群馬県立太田高等養護学校」、平成27(2015)年4月に現在の「群馬県立太田高等特別支援学校」へ変更となっている。一方、施設は当初の校舎が昭和62年3月に竣工し、その後の増築により、平成15(2003)年3月に普通科棟、平成18(2006)年2月に職員増設棟が竣工し、本調査の原因となった普通科棟増築工事が平成31(2019)年3月に竣工している。

2 重複障害者に対応した校舎増築計画

群馬県教育委員会は、平成25~29年度(2013.4~2017.3)の特別支援学校の整備方針を示した「群馬県特別支援教育推進計画」を、平成25(2013)年3月に策定した。この中で、知的障害と肢体不自由という複数の障害を有する児童・生徒の受け入れを図る方針が立てられ、こうした受け入れ校の一つとして太田高等特別支援学校が指定されることとなった。

そして、太田高等特別支援学校ではこうした重複障害生徒の受入に係る施設増設の計画が立てられ、平成29(2017)年度に既存校舎の改修を行い、翌平成30年度に複数の障害をあわせ有する生徒の学級新設からの受け入れを始めることとした。あわせて増設棟の建設を計画し、設計を平成29年度、当該旨の建設を平成30年度に実施す

ることとした。この増設棟の建設は、平成30(2018)年2月策定の「第2期群馬県特別支援教育推進計画」に基づき実行に移され、平成31年3月4日に竣工しているが、この増築工事が本書に報告する「条里制水田想定地」の埋蔵文化財発掘調査の原因である。

3 発掘調査に至る経過

① 埋蔵文化財に係る協議

増設棟建設予定地は、太田高等特別支援学校の中西部、既設の校舎群の北西、その北側に在るグラウンドの南西部に位置する。当該事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地(条里制水田想定地(太田市T0431))の一部に当たる。

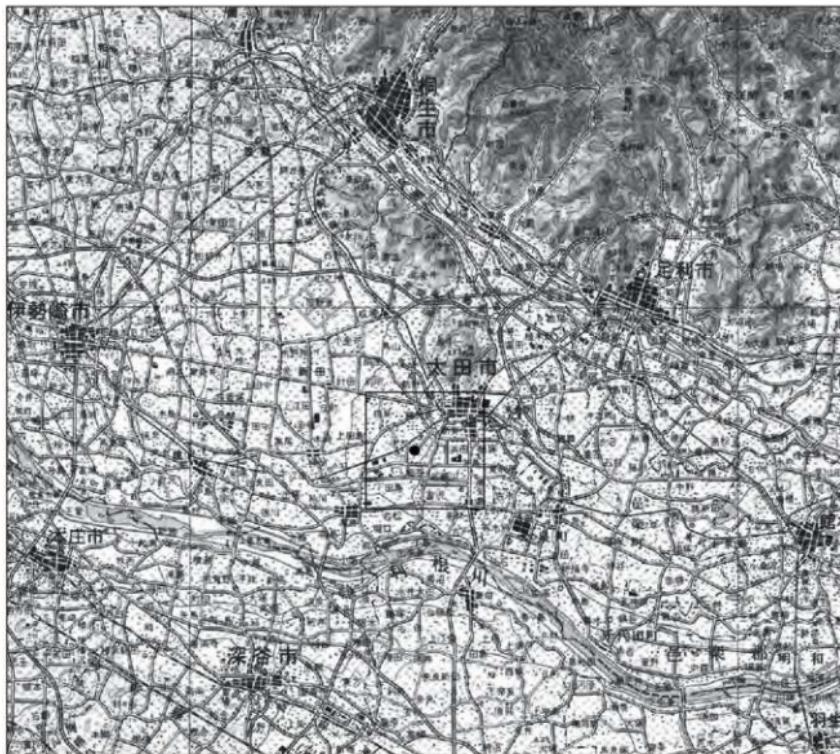
平成29(2017)年5月2日、群馬県教育委員会文化財保護課(以下「県保護課」)は群馬県教育委員会管理課(以下「県管理課」)より「平成29年度公共開発関連計画表」の提出を受けた。この中に太田高等特別支援学校の増設計画が含まれていたため、同年6月30日、県保護課は県管理課に、事業地が埋蔵文化財包蔵地内(太田市遺跡番号:T0431 遺跡名:条里制水田想定地)内にあることから、確認調査の必要を回答した。そして同年11月30日に県管理課より県保護課に対して確認調査の依頼が出された。

② 確認調査

この依頼により県保護課は、平成29(2017)年12月6日遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。対象面積は約505m²、確認調査面積はおよそ6%に当たる約31m²であった。

確認調査は第3図に示したように東西方向に掘削する1m幅の試掘トレンチ2本を南北に配置、設定して、建設機械(バックホー0.2m³)を用いて掘削する方法で実施した。

この確認トレンチによる調査の結果、北側のトレンチ1では幅70cm、深さ10cm程を測り、推定東山道駿路武藏路と走行を一にする時期不特定の溝3条が検出された。一方南側のトレンチ2では、土師器細片を含む2次堆積物と判断された天仁元(1108)年浅間山噴出の軽石(As-B)を混土層と、その下に平安時代の水田耕作土の可能性を



有する黒色土層が確認された。

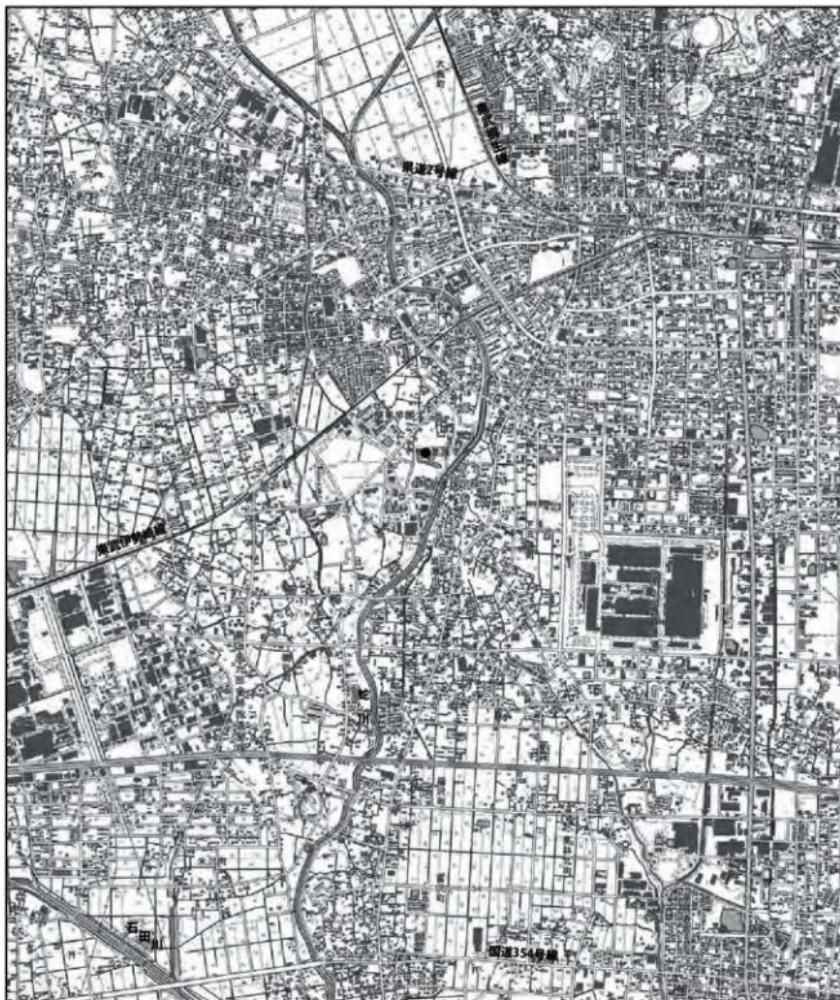
これらの所見から、平成29年12月8日、県保護課は本調査が必要と判断し、これを県管理課へ通知した^(注1)。

③ 発掘調査に至る経過

これについて県管理課は、平成30(2018)年4月13日文化財保護法に基づく94条通知を太田市教育委員会に提出し、同教育委員会は同日付で県保護課へこれを進達し、県教育委員会は「発掘調査」を勧告した。

一方、県保護課と県管理課は同発掘調査業務を公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下「事業団」とする)へ委託することとし、同年5月1日付で群馬県教育委員会と事業団は調査面積505m²、履行期間を平成30年

第1図 条里制水田想定地位置図その1「国土地理院『宇都宮』地勢図200,000を使用」



第2図 条里制水田想定地位置図その2「国土地理院電子地形図25000を掲載」

5～8月、調査期間を同6月1～30日とする契約を締結
し、当事業団が発掘調査を実施した。

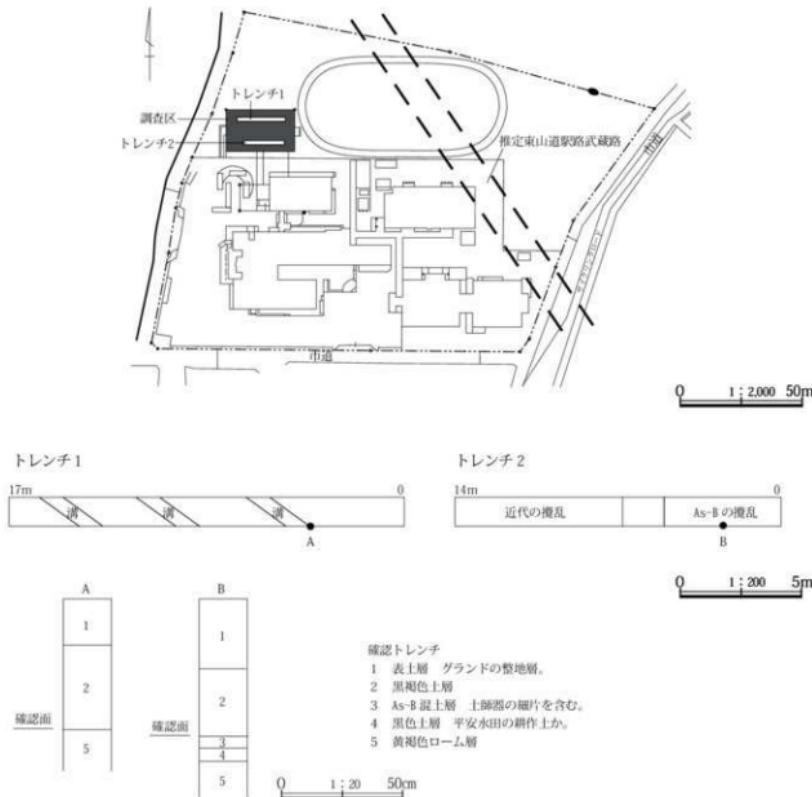
第1章 条里制水田想定地の発掘調査とその経過

【註】

1 県保護課による要発掘調査の判断は、事業による遺跡の破壊が確実であり、一方、設計変更での保護対応が不可能であることにより、当該事業区域の記録保存を行うこととしたものである。また、渡り廊下部分は、「既設構造物や配管があるため、工事立会を実施する」と通知している。

【参考文献】

群馬県教育委員会(2018)『第2期群馬県特別支援教育推進計画』
群馬県立太田高等特別支援学校<<http://www.otakoyo-ses.gsn.ed.jp/>>
2019年11月25日参照



第3図 条里制水田想定地の確認調査

第2節 調査経過

本遺跡の発掘調査事業は、平成30(2018)年5月に事前作業に着手し、本調査は翌6月に実施した。その経過に

ついては、以下に概要を記す。

平成30(2018)年5月

30日 発掘調査範囲設定。

31日 調査事務所プレハブ、安全柵設置。

6月

- 1日 発掘調査地内に重機搬入。
- 4日 重機による表土掘削開始。
隨時遺構確認作業に着手。
- 5日 重機による表土掘削完了。遺構確認作業継続。
- 7日 1～5号溝の掘削作業に着手。
- 8日 1～7号土坑、1号井戸、6号溝の掘削作業着手。
各遺構の断面写真撮影実施。
- 12日 前日の降水による調査遺構内の排水作業実施。
1号土坑、5・6号溝より平面・断面測量着手。
- 13日 各遺構掘削作業および平面・断面測量継続。
1～7号土坑より完掘全景写真撮影実施。
- 14日 8・9号土坑の掘削作業着手。
各遺構平面・断面測量、完掘全景写真撮影継続。
- 18日 1号堅穴建物、10号土坑、旧石器確認のためトレンチ掘削作業に着手。
高所作業車にて調査区全景写真撮影を実施。
- 19日 1号堅穴建物、10号土坑掘削作業継続。
12・13号土坑掘削作業着手。
同遺構の平面・断面測量、断面・完掘全景写真撮影実施。
- 21日 旧石器トレントの掘削作業完了。
同トレントの測量、写真撮影実施。
全ての遺構調査終了。
- 22日 重機搬入により埋戻し開始。
- 26日 埋戻しおよび整地作業完了。重機搬出。
- 28日 調査事務所ブレハブ、安全柵撤去搬出。
調査全工程終了。

第3節 調査の方法

1 遺跡略号

本遺跡の名称である「条里制水田想定地」の構成3文字（「条里制（Johrisei）」、「水田（Suiden）」「想定地（Soutechi）」）のローマ字の頭文字「J S S」を以て本遺跡の遺跡略号とした。

2 位置の表示

本遺跡の調査区域は単一区であるため、地区・区名称

は用いなかった。

また、グリッドの設定も行わなかったが、その位置は1m単位の世界測地系国家座標（座標第IX系）に従って記録されている。しかし、本書に於いてはその表記を簡略化するため、国家座標に基づく1mメッシュをグリッドとして認識し、X軸、Y軸のm単位下3桁を用い、「X軸」・「-」・「Y軸」で標記した。なお、本調査区はX=31,548、Y=42,698～X=31,564、Y=42,723の範囲にある。

3 発掘調査の方法

（1）掘削

本遺跡では表土を、爪隠しを装着したバックホー（建設機械）で除去した後、鋤歴等を用いて人力で遺構面を精査し遺構の検出を行った。

その後、スコップ、移植ゴテ等の道具を用いて遺構の掘削を行い、必要に応じて適宜土層観察用のベルト設定、あるいは半截により土層の観察を行った。

なお、出土した遺物等は記録化の後、原位置より取り上げ、出土位置の記録等を付して収納した。

（2）記録

本発掘調査は遺跡の記録保存の記録を得るために実施されたものであるが、遺構の記録は測量と写真撮影による記録化を施した。

遺構図はデジタル測量による地上測量を基本として測図した。このうち遺構平面図は1/40縮尺図、断面図は1/20縮尺図として作図し、全体図及び旧石器確認調査位置図は1/100縮尺図で作図した。

写真撮影はデジタル写真とプロニード版による銀塩写真を併用した。

4 基本土層

本遺跡の基本土層は第4図に示した。この観察位置は調査区南壁東部であり、本調査区で最も低い区画に位置している。その分層は以下の通りである（1～5層）。

また旧石器の確認調査時（Bトレント）の土層観察所見から、ロームの堆積層の土層記録（6～10層）も加えた。この観察位置は調査区中央付近に位置する。

基本土層

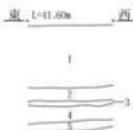
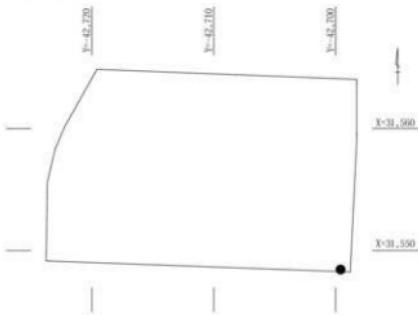
(上位層：層厚 85cm 以上、第4図上)

- 1 校庭盛土
- 2 褐色土
- 3 明褐色土：As-B 混土。東部遺構確認面
- 4 黒色粘質土粒層
- 5 黄褐色土：ローム粒多し。中・西部遺構確認面

(ローム：層厚 97cm 以上、第4図下)

- 6 明黄褐色土：黒褐色土含む
- 7 灰白色土：黒褐色・黄橙色土含む
- 8 褐色土：7・8層土含む
- 9 暗褐色土：7・8層土含む
- 10 褐灰色粘質土：7・8層土含む

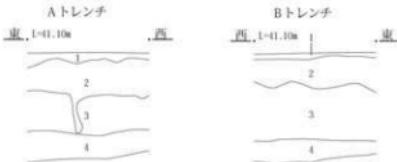
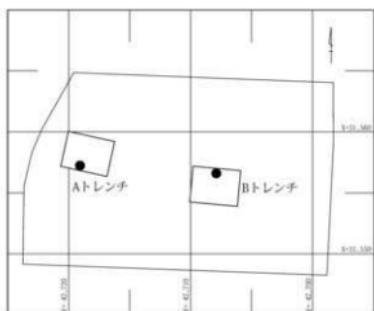
基本上層



基本上層

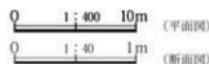
- 1 校庭盛土
- 2 褐灰色土 (7.5YR5/1) 鉄分付着あり。炭化粒を僅か含む。
- 3 明褐色土 (7.5YR5/6) As-B を多量に含む。鉄分、褐色粒を多量に含む。土器小片含む。
- 4 黒色土 (7.5YR2/1) 黏性の強い黒色粒層。ローム粒、褐色粒を僅か含む。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒を多量に含む。

旧石器確認トレンチ



旧石器 A・Bトレンチ

- 1 明黄褐色土 (10YR6/8) 黒褐色ブロックを含む。粘性あり。
- 2 灰白色土 (10YR8/2) 黒褐色ブロック、黄橙色ブロックを含む。粘性あり。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 灰白色ブロックを含む。
- 4 明褐色土 (10YR3/4) 灰白色ブロック、褐色粒を含む。粘性強い。
- 5 褐灰色土 (10YR5/1) 灰白色ブロック、褐色ブロックを含む。



第4図 基本土層図、旧石器確認トレンチ図

第2章 条里制水田想定地を廻る環境

第1節 地理的・地質的環境

1. 地理的環境

条里制水田想定地は群馬県太田市中南部、同市藤阿久町と細谷町に跨って所在する。太田市は群馬県東部に在って、東に栃木県足利市、群馬県邑楽郡大泉町、同郡邑楽町、南に埼玉県熊谷市、同県深谷市、西に群馬県伊勢崎市、北に同県桐生市、同みどり市が接する。南は利根川の流路変更が盛んであった名残で、利根川を挟んで県域、市域が入り乱れて越境する地域もある。太田市中心部は戦前より中島飛行機、戦後は富士重工業(現「SUBARU」)の企業城下町であり、付近に関連の工場が散在する。

ところで、条里制水田想定地(T0431)は、その名を冠する通り、条里制水田の遺存が想定される周知の遺跡である。同遺跡は群馬県庁の東南東29km、太田市役所の南西2km程の地点に在り、利根川の支流である一級河川石田川の支流、蛇川の右岸に同川に接して在り、同じく石田川支流の聖川の左岸に在って、東武伊勢崎線細谷駅の東方に位置する。本遺跡の範囲は、東を蛇川、北を群馬県立太田高等支援学校と太田市立養護学校の境界とその延長線上に立地する道路、北西を北東から南西に走行する東武伊勢崎線の東300m程を並走する市道、南西を南流する聖川の東200m程を並走する市道を境としている。なお、本報告書の調査区は本遺跡の北東隅部に位置している。

本遺跡付近は元々耕作地であったが、今日では関東学園大学、群馬県立太田高等支援学校、太田市立太田中学校、同市立太田養護学校、太田医師会立太田看護専門学校等の教育機関、太田市外三町広域清掃組合リサイクルプラザや、各種の福祉施設等が散在する地域となっている。

さて太田市の地形は、丘陵地と台地、低地とに分かれている。丘陵地は市域北東に在り、北に八王子丘陵、南に金山が在る。第5図右上の金山の比高は160~180mと低山を成す。台地は金山西側を中心に広く分布する、渡

良瀬川が更新世に形成した大間々扇状地と、利根川沿いに発達した自然堤防とがある。低地部はこの台地部を河川が開析して形成されている。

また、第5図には入らないが、南方で利根川が東流し、付近ではその支流に石田川がある。石田川は太田市新田大根町に発して南流し、同市世良田で流れを東に転じ、更に東南東に転じて同市古戸町で利根川に流入する。石田川の支流には下流側より八瀬川、蛇川、聖川、高寺川、大川があり、共に南流して石田川に合流する。このうち八瀬川と蛇川は八王子丘陵付近を源とし、その他3河川は金山西方付近を源としている。

2. 地質的環境

本遺跡付近の地質を概観すると、そのもっとも古いものは金山に見られる足尾帯の砂岩および砂岩と頁岩の互層(As)である。この地層は中生代ジュラ紀の付加帶堆積物である。

次に古いものは、やはり金山に見られる新生界古第三系(暁新統～漸新統)所産の金山流紋岩類(KI)である。

これに続く時期のものは新生界第四紀更新世の中部ローム層が被ふくする段丘面である由良台地・太田南部台地(TT)である。この段丘面は火山灰層、凝灰質粘土層、火山灰と角礫の混在する地層から成る。もともとは館林台地・邑楽台地・櫛現台地・木崎台地と同一の地形面であったが、扇状地形や河川の開析により区分されたものである。これらの台地には浅間板鼻褐色テフラ(As-BP、2.0~2.5万年前)とその下位の暗色帶が確認されている。

上部ローム層が被ふくする段丘面には、蔽塚面(YB)、相生面(AI)がある。蔽塚面は大間々から蔽塚にかけて広がる扇状地とその扇端部南方の沖積低地に散在し、その年代は2.0~3.0万年前である。相生面は渡良瀬川流域に広がり、その年代は1.5万年前後である。こうした台地や段丘面を開析して完新世の沖積地(A)が形成されている。

【参考文献】

太田市『太田市史 通史編 自然』1996

群馬県地質図作成委員会『群馬県10万分の1地質図』(1999)、新井房夫

監修、内外地圖株式会社

町田洋、新井房夫『新編 火山灰アトラス』(2003)、財團法人東京大学出

版会



第5図 条里制水田想定地周辺地質図「国土地理院電子地形図25000を加筆して使用」

第2節 歴史的環境

第6図に見られるように、本遺跡周辺では広く遺跡の分布が見られる。しかしその分布域は、丘陵、台地部分で濃く、低地部(沖積地)では薄い傾向が見られ、後者では遺跡の分布しない地域も多く見られる。

1. 旧石器時代

第6図の範囲では金山周辺及び台地上に21ヶ所の遺跡が確認されている。

さて付近の旧石器遺跡は、AT下の暗色帯、As-BP Group前後、As-YP下の3層から検出されている。このうち東別所遺跡(46)で大形の槍先形尖頭器が出土し、田谷遺跡(56)でチャート製ナイフ形石器等がAs-0k混ローム、As-YP下の石器ブロック、As-BP Group降下前後の層より石器ブロックが確認され、As-YP下からは黒曜石製ナイフ形石器等含まれていた。また、高林三入遺跡(73)で暗色帯およびAs-BP降下前後の層より石器ブロック・礫群、ナイフ形石器と礫群が確認されている。この他八幡山遺跡(135)からは二側縁加工のナイフ形石器が出土、大島口遺跡(136)からは刃器状剥片、東別所遺跡(46)、金井口古墳群(149)からは槍先形尖頭器が出土している。

2. 繩文時代

縩文時代の遺跡は、やはり、金山周辺及び台地上に遺り、第6図範囲では31ヶ所の遺跡が確認されている。

草創期、早期、前期の遺跡は金山や台地部で遺物分布が確認されているが、前期の関山・黒浜式期から遺跡数は増加する。この中で、堂原遺跡(120)からは貝殻条痕文系の土器が出土している。中期の遺物は台地部で若干の出土を見るが、堂原遺跡(120)等の遺跡から加曾利E式期の遺構、遺物が多く発見されている。また細谷合ノ谷遺跡(95)からは後期初頭の称名寺~堀之内式期の集落、堂原遺跡(120)からも後期称名寺式期の包含層が検出されている。

3. 弥生時代

太田市域の弥生遺跡の分布は少なく、その様相は詳らかでない。第6図の範囲で確認されている遺跡は僅か10遺跡に過ぎない。

このうち高林三入遺跡(73)で後期の土器片が出土し、焼山遺跡(163)で中・後期の土器片が出土している。

4. 古墳時代

古墳時代になると遺跡数が急増する。その分布は丘陵、台地、低地部に広く分布し、第6図の範囲で古墳は450基以上、これらを含む古墳群が34ヶ所、その他集落等が82ヶ所を数える。

このうち古墳では、前期に墳長124mを測る前方後円墳の朝子塚古墳(70)や八幡山古墳(170)が築かれ、中期には墳長210mを測る東日本最大の前方後円墳、太田天神山古墳(21A)や墳長106mを測る帆立貝形の女体山古墳(24)、墳長165mを測る前方後円墳、円福寺茶臼山古墳(171)が築かれている。太田天神山古墳では前方部と後円部間の鞍部に長持型石棺の部材が露出し、墳丘頂部には家・盾・水鳥等の形象埴輪や円筒埴輪が確認されている。後期には東矢島古墳群(52)などの古墳群が多く築かれている。

一方集落では、前期のものとして、S字状口縁台付甕を特徴とする前期、石田川式(五領式併行期)の標識遺跡である石田川遺跡(81)や、飯塚古墳群(41)、田谷遺跡(56)、宮西遺跡(58)、高林三入遺跡(73)、富沢古墳群(80)、堂原遺跡(120)など方形周溝墓を伴う集落が知られる。駿屋深町遺跡(122)では方形周溝墓とともに円形周溝墓が調査されている。5世紀代の遺跡としては、5世紀前半の居館と思われるものの周堀を調査した田谷遺跡(56)、後期の集落としては浜町遺跡(16)、浜町古墳群(17)、宮西遺跡(58)が調査され、舞台A・D遺跡(9)では6~7世紀中ごろの竪穴建物65棟、土坑から大量の炭化米が出土している。

5. 奈良・平安時代

律令期に入ると郷(評)里制が施行されたが、当地は新田郡に含まれていた。平安時代、新田郡は新田、渟野(かすの)、石西(いわせ)、祝人(はぶり)、淡甘(たこう)、馬家(うまや)の6郷から成っていたが、本遺跡は石西郷に含まれていた可能性がある。

奈良時代の遺跡では、細谷合ノ谷遺跡(95)で8世紀前半の集落、年保遺跡(133)からは奈良時代の大規模建物が発見され、北之庄遺跡(105)からは奈良・平安時代の

堅穴建物と鍛冶遺構が確認されている。9世紀後半の集落が福沢新田遺跡(77)、細谷合ノ谷遺跡(95)、細谷八幡遺跡(96)で調査され、富澤古墳群(80)からは9世紀の集落、釣堂遺跡(119)からは平安時代の集落が発見されている。この他、第6図範囲外の鳥谷戸遺跡ではAs-B下水田の調査例がある。

東山道駿路武藏路(a)として、付近で略東西に走行する東山道駿路新田駅(上野国)から南方に分岐して、律令

期当初東山道に含まれていた武藏国府へ通じる道路が検出されている。『続日本紀』によれば宝亀2(771)年、武藏国への東海道への所属代えにより、公道としての役目を終えるが、その後も道路としての機能は継続している。

6. 中世

天仁元(1108)年の浅間山の噴火に伴い、本遺跡付近でも5~10cm厚の軽石の降下があったが、この火山災害の



第6図 条里制水田想定地周辺道路分布図「国土地理院電子地形図25000を加筆して使用」

復旧は清和源氏の新田氏、あるいは藤原秀郷流の箇田氏や佐賀氏といった在地領主たちが、貴族や寺社と結んで立莊化して進められ、太田市域は、中・西部は新田莊、東部に大藏保、寮米保、邑楽御厨が立ったが、本遺跡付近は新田莊に含まれる。その後南北朝期までは、新田氏とその一族の支配に置かれ、本遺跡付近は細谷氏の領する所となったものと考えられる。

室町時代に入ると、曲折はあったが足利尊氏に付いた新田一族の岩松氏が勢力を伸長する。しかし礼部家、京兆家の争いなど親族による内紛を繰り返し、これを仲裁した重臣の横瀬氏の専横を許し、遂に下克上が成って横瀬氏が領主となる。横瀬氏は姓を由良と改めて、天正18(1590)年の小田原攻めまで東毛に勢力を誇った。

岩松氏が居城し、その後由良氏が居城したのが金山城(太田金山城、153)である。金山城は金山全域を城域とし、文明元(1469)年の築城とされ、その後改修されて大城郭となったものの、天正18(1590)年に廃城となる。金山城の中心城=実城(154)は山頂付近に在りながら湧水があり、これを溜めた日の池、月の池という湧水池を設けている。また第6図中、153の文字の左側付近が大手で、実城から西に延びる尾根上に西城(155)、その北側に長手口砦跡(156)、南に延びる尾根上に八王子の砦(158)が設けられ、十八曲遺跡(141)には中世の堀切が調査された。この城の特徴は地山の流紋岩を用いた石垣の城であることである。また金山城の南西には出城として障子堀が確認された大島城(12)があり、低地を挟んだ台地上に由良の砦跡(106)が設けられた。

一方、第6図に示した付近には臨屋義介の居所とされる臨屋館(115)等、新田一族が居住した単郭方形館を基本とする環濠屋敷が多く見られる。また今井屋敷跡(6)からは茶臼や石臼、内耳鍋等が多量に出土し、大島城(12)と重なる城ノ内遺跡(11)からは15世紀中頃から16世紀中心のかわらけが多量に出土し、富沢古墳群(80)では中世土墳49基や北側の館跡堀跡が確認されている。

古戸道(b)は鎌倉街道の枝道であり、東山道駿路武藏路に並行するように走る。なお、古戸(太田市古戸町)は太田市街地の南、利根川左岸の利根川沿いの地名である。

7. 近世

近世に入ると本遺跡周辺地域の支配は、幕府直轄領、

館林藩等の各藩領、旗本領などが入り乱れる状態になる。近世の遺跡では、高林本郷遺跡(67)で近世以降の構11条が調査され、細谷中遺跡(98)で近世土壤群が検出されている。

一方、近世の街道には日光例幣使街道(c)がある。この道は、朝廷から日光東照宮に送られた奉幣使のために整備された街道であり、本遺跡付近では木崎宿、太田宿が整備される。金山の南、高札場の在たる県道2号(例幣使街道宿通り)の東本町十字路から略北方に進み、金山の麓で走行を北東方向に転ずる県道341号はかつて母衣輪道と呼ばれ、これに続く国道407号とを足利道と呼んだ。桐生道(d北半)は、この母衣輪道から太田市熊野町追分で分岐して北北東に進み桐生に至る県道316号に沿う道路である。一方、古戸道(d南半、上述の中世のものとは異なる)は、国道407号に沿って南進し、太田市古戸で利根川を渡し船で渡し、南進して中山道に至る。この道は利根川水運の古戸河岸と太田宿の市をつなぐ役割も担っていた。

【参考文献】

- 太田市(1992)『太田市誌 通史編 近世』
- 太田市(1996)『太田市誌 通史編 原始古代』
- 太田市(1997)『太田市誌 通史編 中世』
- 太田市教育委員会(2008)『太田市内道路3』
- 太田市教育委員会(2009)『太田市内道路4』
- 太田市教育委員会(2010)『太田市内道路5』
- 太田市教育委員会(2013)『太田市内道路8』
- 太田市教育委員会(2014)『太田市内道路9』
- 太田市教育委員会(2015)『太田市内道路10』
- 太田市教育委員会(2016)『太田市内道路11』
- 太田市教育委員会(2017)『太田市内道路12』
- 太田市教育委員会(2019)『笠松千歳2遺跡』
- 太田市文化財保存計画協議会(1995)『史跡金山城跡整備基本計画書』
- 群馬県教育委員会(1978)『日光例幣使街道』
- 群馬県教育委員会(1980)『古戸・桐生道』
- 群馬県教育委員会(1982)『鎌倉街道』
- 群馬県教育委員会(1988)『群馬県の中世城跡』
- 群馬県教育委員会(2017)『群馬県古墳続観』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2003)『年保遺跡 烏山下遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2004)『前沖遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2005)『高林三人遺跡 八反田遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2006)『塚畠遺跡 宮内遺跡 稲荷前遺跡 三木本遺跡 城ノ内遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2007)『細谷南遺跡 細谷八幡遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2007)『福沢新田遺跡 稲荷谷ノ谷遺跡 稲谷八幡遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2012)『浜町遺跡 浜町古墳群 宮内遺跡』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2013)『笠松遺跡 稲庭遺跡 天良七堂遺跡』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2015)『田谷遺跡』
- マッピングぐんま <http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/top> 2019年11月29日参照

第2章 条里制水田想定地を廻る環境

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	山町 村 遺跡 番号	時代				種別	備考
			旧 石 器 文	新 石 器 文	古 墳	全 て の 平 安		
1	条里制水田想定地	T0431	○	○	○	○	本遺跡	
2	川岸遺跡	T0142	○	○	○	○	集落	
3	中道西遺跡	T0141	○	○	○	○	散布地	
4	藤久良古占遺跡	T0380	○	○	○	○	散布地、古墳	
5	舞台C 遺跡	T0143	○	○	○	○	集落	
6	今井履敷跡	T0363	○	○	○	○	城館 13・14世紀 今井惟氏、 今井義義	
7	屋敷内遺跡	T0196	○	○	○	○	古墳、墓、 その他	
8	大道北遺跡	T0332	○	○	○	○	集落	
9	舞台A・D 遺跡	T0280	○	○	○	○	集落	
10	藤阿久古墳群	T0131	○	○	○	○	古墳 古墳7基以上	
11	城ノ内遺跡	T0193	○	○	○	○	集落、城 館	
12	大島城		○	○	○	○	城館 16世紀 (城ノ内遺跡内)	
13	三木本道跡	T0383	○	○	○	○	集落	
14	環濠遺跡	T0406	○	○	○	○	集落	
15	稻荷前遺跡	T0382	○	○	○	○	集落	
16	浜町遺跡	T0194	○	○	○	○	集落	
17	浜町古墳群	T0195	○	○	○	○	古墳、 その他	
18	宮内遺跡	T0381	○	○	○	○	集落、 その他	
19	本跡跡	T0401	○	○	○	○	その他	
20	北田堀邊造橋跡	T0366	○	○	○	○	城館	
21	太田神山天神山 A 古墳 (九合村69号古墳)	T0008	○	○	○	○	古墳 前方後円墳 国史跡	
22	天神山古墳八幡塚 B (九合村67号古墳)	T0010	○	○	○	○	古墳 国境	
23	日塙遺跡	T0435	○	○	○	○	散布地	
24	女体山古墳東方遺 跡	T0007	○	○	○	○	散布地、 古墳	
25	女体山古墳東方遺 跡	T0204	○	○	○	○	散布地	
26	小舞木遺跡	T0208	○	○	○	○	集落、 その他	古墳6基
27	飯田古墳群	T0011	○	○	○	○	古墳、 その他	古墳7基
28	条里制水田想定地	T0200	○	○	○	○	その他	
29	新井鉢跡	T0364	○	○	○	○	城館 14-16世紀 新井寛義、 (城代氏)	
30	新井古墳群	T0198	○	○	○	○	古墳、 その他	古墳5基
31	条里制水田想定地	T0225	○	○	○	○	その他	
32	鳥居遺跡	T0349	○	○	○	○	散布地	
33	桜ヶ谷口遺跡	T0220	○	○	○	○	散布地	
34	岩瀬山遺跡	T0219	○	○	○	○	集落	
35	北松島遺跡	T0350	○	○	○	○	散布地	
36	道畠谷戸遺跡	T0351	○	○	○	○	散布地	
37	坂玉遺跡	T0353	○	○	○	○	散布地	
38	飯塙条里制水田跡	T0201	○	○	○	○	その他	
39	宮前遺跡	T0023	○	○	○	○	集落	
40	北明京寺遺跡	T0202	○	○	○	○	集落	
41	飯塙古墳群	T0014	○	○	○	○	集落、 古墳	古墳13基
42	内ヶ島古墳群	T0012	○	○	○	○	集落、 古墳	古墳5基
43	房塙遺跡	T0205	○	○	○	○	散布地	
44	通勤公園内遺跡	T0207	○	○	○	○	集落	
45	内ヶ島南田遺跡	T0022	○	○	○	○	集落	
46	東別所遺跡	T0213	○	○	○	○	散布地	
47	東別所西原遺跡	T0211	○	○	○	○	散布地	
48	東別所本郷遺跡	T0212	○	○	○	○	集落	

No.	遺跡名	山町 村 遺跡 番号	時代				種別	備考
			旧 石 器 文	新 石 器 文	古 墳	全 て の 平 安		
49	川入跡	T0107	○	○	○	○	散布地、 集落、 古墳	古墳14基
50	里沙門遺跡	T0108	○	○	○	○	散布地、 集落	
51	道知塙遺跡	T0239	○	○	○	○	散布地、 古墳	
52	東矢古墳群	T0018	○	○	○	○	古墳	古墳20基
53	新ヶ谷口遺跡	T0020	○	○	○	○	集落	
54	河ノ林遺跡	T0214	○	○	○	○	散布地	その他
55	条里制水田想定地	T0237	○	○	○	○	集落、 填埋	
56	田谷遺跡	T0215	○	○	○	○	城館	14世紀 笑鳥信氏
57	東矢城跡	T0216	○	○	○	○	集落	
58	宮西遺跡	T0216	○	○	○	○	城館	16世紀 林高宗
59	矢島城跡	T0024	○	○	○	○	城館	16世紀 林高宗
60	西矢島遺跡	T0021	○	○	○	○	集落	
61	集里制水田想定地	T0210	○	○	○	○	その他	
62	八反田遺跡	T0226	○	○	○	○	その他	
63	西矢島古墳群	T0209	○	○	○	○	古墳	古墳14基以上
64	高林城跡	T0326	○	○	○	○	城館	16世紀 柳塚 義秀、太田氏
65	高沢遺跡	T0229	○	○	○	○	集落	
66	向野遺跡	T0231	○	○	○	○	集落	
67	高林本郷遺跡	T0231	○	○	○	○	集落	
68	高林堀瀬遺構、 (高林代官所址)	T0368	○	○	○	○	城館	16-19世紀 足利成氏か
69	高林遺跡	T0035	○	○	○	○	集落	
70	御子塚古墳 (勝野村40号古墳)	T0027	○	○	○	○	古墳	前方後円墳 御史跡
71	日敷東遺跡	T0324	○	○	○	○	集落	
72	条里制水田想定地	T0430	○	○	○	○	その他	
73	高林三入遺跡	T0280	○	○	○	○	散布地、 集落	
74	杉ノ下道跡	T0352	○	○	○	○	散布地	
75	家前遺跡	T0218	○	○	○	○	散布地	
76	岩瀬山古墳群	T0221	○	○	○	○	古墳	古墳12基
77	福沢新田遺跡	T0039	○	○	○	○	散布地、 その他	
78	富沼館 (富沢城跡)	T0367	○	○	○	○	城館	16世紀 富沢氏
79	牛沢城跡	T0325	○	○	○	○	城館	16世紀 牛沢氏
80	富沢古墳群	J0033	○	○	○	○	集落、 古墳	古墳63基
81	石川田遺跡	T0037	○	○	○	○	集落	
82	米沢中遺跡	T0038	○	○	○	○	集落	
83	石松東門跡	J0063	○	○	○	○	城館	
84	石松金剛寺西遺跡	J0109	○	○	○	○	集落	
85	FPM流下道遺跡群	J0065	○	○	○	○	散布地	
86	岩松本郷遺跡	J0061	○	○	○	○	散布地	
87	桶木野城 (岩松館跡)	J0033	○	○	○	○	城館	16世紀 横瀬成高
88	常木遺跡	J0031	○	○	○	○	集落、 墓、 その他	
89	岩松新邸遺跡	J0032	○	○	○	○	散布地	
90	下田島遺跡	T0249	○	○	○	○	集落、 古墳	
91	東田島遺跡	T0384	○	○	○	○	集落	
92	福谷南遺跡	T0036	○	○	○	○	集落	
93	福谷古墳群	T0032	○	○	○	○	古墳	古墳5基
94	御手洗遺跡	T0234	○	○	○	○	散布地	
95	福谷合ノ谷遺跡	T0424	○	○	○	○	散布地、 その他	

No.	遺跡名	山町 村 遺跡 番号	時代					種別	備考
			旧 石 器	新 石 器	古 文	古 墳	余 良 生 塙		
96	棚谷八幡遺跡	T0395	○	○	○	○	○	集落	
97	棚谷東遺跡	T0348	○	○	○	○	○	散布地	
98	棚谷中道跡	T0235	○	○	○	○	○	散布地	
99	宮元遺跡	T0282	○	○	○	○	○	散布地	
100	清川遺跡	T0140	○	○	○	○	○	散布地	
101	由良天王遺跡	T0125	○	○	○	○	○	集落	
102	筑森古墳群	T0283	○	○	○	○	○	古墳	
103	由中遺跡	T0344	○	○	○	○	○	散布地	
104	五反田遺跡	T0179	○	○	○	○	○	集落	
105	北之庄遺跡	T0124	○	○	○	○	○	散布地、 集落、 古墳	
106	山良の砦跡	T0293	○	○	○	○	○	城館 14-16世紀 由良氏	
107	大狗林遺跡	T0126	○	○	○	○	○	散布地、 集落	
108	山良北原遺跡	T0347	○	○	○	○	○	古墳	
109	台源氏館	T0134	○	○	○	○	○	城館 新田氏	
110	大門遺跡	T0281	○	○	○	○	○	散布地、 城館	
111	新田館	(T0300)	○	○	○	○	○	城館 14世紀 新田氏 (大門遺跡内)	
112	茶臼山古墳・石碑・ 新田氏累代の墓	T0132	○	○	○	○	○	古墳、墓、 その他	
113	岡原遺跡	T0137	○	○	○	○	○	散布地	
114	観音免遺跡	T0133	○	○	○	○	○	城館、墓、 その他	
115	脇屋館 (脇屋義介館跡)	(T0303)	○	○	○	○	○	城館 14世紀 脇屋義介(観音 免遺跡内)	
116	脇屋中原遺跡	T0287	○	○	○	○	○	散布地	
117	下原遺跡	T0136	○	○	○	○	○	散布地	
118	新野古墳群	T0386	○	○	○	○	○	古墳 古墳4基	
119	釣室遺跡	T0144	○	○	○	○	○	集落	
120	堂原遺跡	T0123	○	○	○	○	○	集落、古 墳、墓、 その他	
121	脇屋古墳群	T0286	○	○	○	○	○	集落、古 墳、墓、 その他	古墳36基
122	脇屋深沢遺跡	T0138	○	○	○	○	○	集落、古 墳、墓、 その他	
123	鳥山宿屋敷遺跡	T0080	○	○	○	○	○	散布地、 古墳	
124	踏子遺跡	T0265	○	○	○	○	○	散布地	
125	鳥ヶ谷戸遺跡	T0267	○	○	○	○	○	散布地	
126	鳥山下道跡・前神 遺跡	T0071	○	○	○	○	○	集落	
127	鳥山城 (鳥山宿屋敷構群)	T0373	○	○	○	○	○	城館 15-16世紀 鳥山氏	
128	鳥山城 (鳥山宿屋敷構群)	T0373	○	○	○	○	○	城館	
129	鳥山宿敷 (鳥山宿屋敷構群)	T0373	○	○	○	○	○	城館	
130	前神遺跡	T0432	○	○	○	○	○	散布地、 集落、 城館	
131	三枚橋南遺跡	T0433	○	○	○	○	○	集落	
132	三枚橋南古墳群	T0278	○	○	○	○	○	古墳	古墳12基
133	年保遺跡	T0259	○	○	○	○	○	散布地、 集落	
134	大鳥館	T0372	○	○	○	○	○	城館 14世紀大鳥氏、 (里見氏)	
135	八幡山遺跡	T0258	○	○	○	○	○	散布地	
136	大鳥山遺跡	T0070	○	○	○	○	○	散布地	古墳6基
137	貝多塚古墳群	T0075	○	○	○	○	○	古墳	古墳18基

No.	遺跡名	山町 村 遺跡 番号	時代					種別	備考
			旧 石 器	新 石 器	古 文	古 墳	余 良 生 塙		
138	長手口古墳群	T0184	○	○	○	○	○	古墳	古墳35基
139	間々下道跡	T0318	○	○	○	○	○	集落	
140	式足反古墳群及び 土師器包藏地	T0182	○	○	○	○	○	散布地、 古墳	
141	山古・十八古道跡	T0185	○	○	○	○	○	散布地、 古墳	
142	西山古墳群	T0192	○	○	○	○	○	古墳	
143	東山古墳群	T0003	○	○	○	○	○	散布地、 古墳	古墳5基
144	富士山古墳群	T0362	○	○	○	○	○	古墳	
145	寺入古墳群	T0051	○	○	○	○	○	古墳	古墳29基
146	馬場古墳群	T0181	○	○	○	○	○	古墳	
147	内庭木古墳群	T0049	○	○	○	○	○	散布地、 古墳	
148	聖天沢遺跡	T0444	○	○	○	○	○	墓、その 他の	
149	金井口古墳群	T0050	○	○	○	○	○	散布地、 古墳、生 産遺跡	
150	金井口埴輪窯跡	T0385	○	○	○	○	○	散布地、 生产遺跡	
151	龜山古墳群	T0048	○	○	○	○	○	古墳	古墳19基
152	龜山空跡	T0065	○	○	○	○	○	生產遺跡	
153	金山城跡 (金山城櫻張り)	T0006	○	○	○	○	○	城館 15-16世紀 岩松氏、由良氏、 清水正次	
154	尖城	T0006	○	○	○	○	○	城館	15-16世紀
155	西城	T0006	○	○	○	○	○	城館	金山城の傍 高山定重
156	長手口竹跡	T0391	○	○	○	○	○	城館	金山城の傍
157	山良氏五輪塔	T0396	○	○	○	○	○	城館	金山城の傍
158	八王子の砦	T0006	○	○	○	○	○	城館	金山城の傍
159	東金井城跡	T0369	○	○	○	○	○	城館	15-16世紀 金 山城の傍 岩 松直純、北条 上総入道、大 崩高繁
160	鬼ノ山遺跡	T0041	○	○	○	○	○	古墳	
161	原店遺跡	T0054	○	○	○	○	○	散布地	
162	鬼ノ北古墳群	T0419	○	○	○	○	○	古墳	古墳5基
163	鬼ノ山道跡	T0040	○	○	○	○	○	古墳	
164	鬼山古墳群	T0046	○	○	○	○	○	古墳	古墳40基以上
165	細田道跡	T0252	○	○	○	○	○	集落、古 墳、墓、 その他	
166	伊豆の山道跡	T0418	○	○	○	○	○	散布地	
167	鬼ノ宮遺跡	T0251	○	○	○	○	○	散布地	
168	東長岡戸口1遺跡	T0058	○	○	○	○	○	集落、城 館	
169	東岳岡1遺跡	T0400	○	○	○	○	○	散布地	
170	八幡山古墳(鳥之 郷付近古墳)	T0072	○	○	○	○	○	古墳	前方後円墳 市史跡
171	円福寺茶臼山古墳 (宝泉寺3号古墳)	T0132	○	○	○	○	○	古墳	前方後円墳 市史跡
a	補完東山道駅跡 武藏路	T0227	○	○	○	○	○	その他	
b	古ノ道(鎌倉街道)		○	○	○	○	○	その他	
c	日光例幣使街道		○	○	○	○	○	その他	
d	古ノ道・桐生道		○	○	○	○	○	その他	

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 遺構と遺物

1. 遺構の概要(第7図、PL. 1)

先述のように本発掘調査に於ける調査区は1区域であり、現代の圃場整備の施行により遺構が損なわれ、1面の調査となつた。また、同整備に伴うトラクターのタイヤ痕が東西に幾筋も残り、遺構確認面の状態は不良であった。遺構確認面は中・西部ではローム(基本5・6層)、東部ではAs-B混土(基本3層)を確認面として発掘調査を実施した。本項では、先づその遺構概要を記す。

本調査区では東壁際や南寄りに平安時代の竪穴建物1棟が確認された。

また調査区北部に西北西—東南東方向に並走する溝3

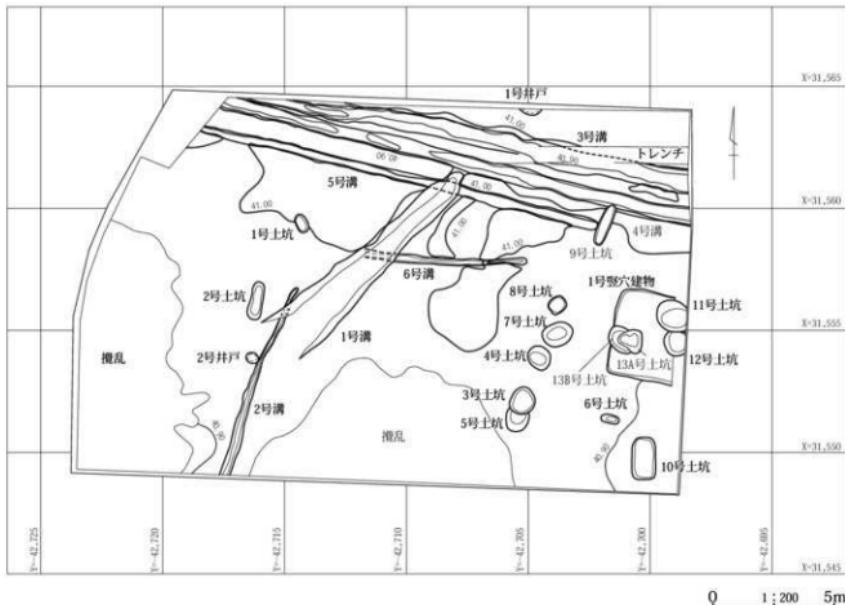
条(3~5号溝)が検出され、これに直行する方向に走行する溝1条が調査区西南部に確認されている。この他、上記3条の南に略東西方向に走行する溝1条が検出され、中央部に北東—南西方向に走行する現代まで続く溝1条(1号溝)が検出されている。

土坑は南東部竪穴建物周辺に12基が分布するがこのうち7基(7・9~12・13A・13B号土坑)は覆土から古代の所産と認識された。また西部に土坑2基が分布する。

一方、調査区北端部東寄りと南西部に井戸がそれぞれ1基確認されているが、安全確保の観点から完掘されておらず、時期は特定できない。

第2表 検出遺構数量

遺構名	竪穴建物	土坑	井戸	溝	計
検出数	1	14	2	6	23



第7図 調査区全体図

2. 1号竪穴建物(第8図、PL. 1)

概要 本建物は、東部が調査区外に在るため、全容は確認できなかった。また遺構の遺存状態も不良であり、床面の遺存が確認できなかった可能性も考慮される。

位置 本建物は調査区東端部やや南寄りに位置し、552～556～698～701グリッドに位置する。

重複 本建物は11・12・13a・13b号土坑と重複するが、いずれに対しても本建物が切っている。

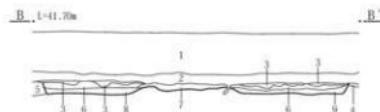
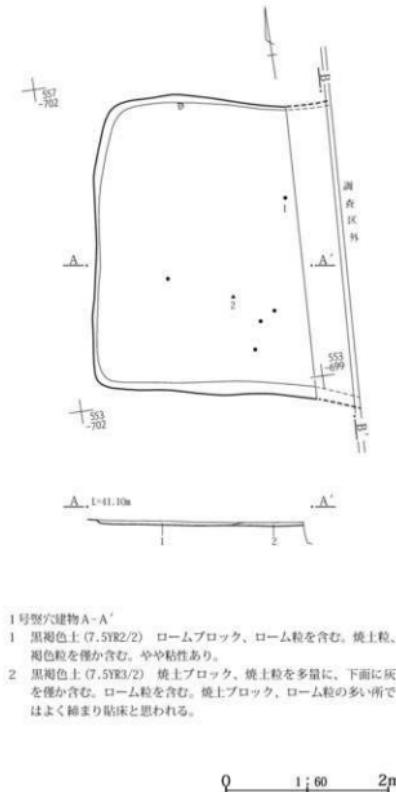
規模 径：3.89×3.46m 深さ：0.48m

埋没状況 黒褐色土で埋没する。

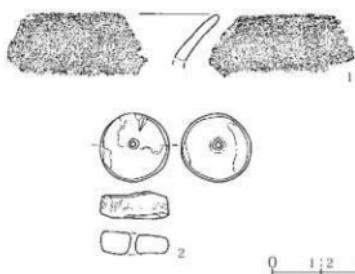
構造 [竪穴] 上述のように東側が調査区外に在るため、全容は詳らかでないが、竪穴は隅丸方形または隅丸長方形プランを呈するものと思われる。主軸方向はN79°Wである。

[掘り方] 掘り方は東部で中央部が南北幅1.2m程掘り残しを設ける掘り方を有する。これを褐色土やにぶい褐色土で埋め戻し、東部中程では覆土の黒色土中の焼土ブロックやローム粒を多く含む部分はよく締まり、貼り床と認識された。

[炉・竈] 炉・竈は認められなかった。後述の出土遺物から推して、本建物は奈良・平安時代の所産と認識される



- 1 収縮盛土 (基本上層1層)
- 2 褐褐色土 (7.5YR5/1) 鉄分付着あり。炭化粒を僅か含む。(基本上層2層)
- 3 明褐色土 (7.5YR5/6) As-Bを多量に含む。鉄分、褐色粒を多量に含む。土器小片含む。(基本上層3層)
- 4 黑褐色土 (7.5YR2/1) 黏性の強い黒色粒層。ローム粒、褐色粒を僅か含む。(基本上層4層)
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒を多量に含む。(基本上層5層)
- 6 黑褐色土 (7.5YR2/2) ロームブロック、ローム粒を含む。焼土粒、褐色粒を僅か含む。やや粘性あり。(A-A' 2層)
- 7 黑褐色土 (7.5YR3/2) 焼土ブロック、焼土粒を多量に、下面に灰を僅か含む。ローム粒を含む。焼土ブロック、ローム粒の多い所ではよく締まり貼床と思われる。(A-A' 2層)
- 8 褐褐色土 (7.5YR4/1) ローム粒を僅か含む。やわらかい。
- 9 にぶい褐色土 (7.5YR5/4) ローム粒を多量に含む。褐色粒を含む。やわらかい。



第8図 1号竪穴建物と出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

ため、竪の築造が想定されるが、竪は東側調査区外に構築されているものと考えられる。

〔柱穴・貯蔵穴〕柱穴・貯蔵穴も確認されなかった。

遺物 本建物からは、8・9世紀の所産と推定される土師器焼片(1)などの僅かな土師器・須恵器片や、石製の白玉(2)が出土したに過ぎなかった。

所見 本建物の時期は特定できなかったが、出土遺物から推して8・9世紀の所産である可能性が考えられる。

3. 土坑(第9・10図、PL. 2・3)

概要 本調査区では土坑14基が確認された。

位置 1・2号土坑は調査区西部に北北東—南南西方向に4m程離て在り、東部に3～5・7～9号土坑の6基が北北東—南南西方向に連なってあり、6・10号土坑が南東隅部に、11・12・13A・13B号土坑の4基が1号竪穴建物と重複して在る。

所在グリッドは第3表に記した。

規模・主軸方位 本調査区の土坑の径は0.34～1.74m、平均0.93m(長径1.10m、短径0.80m)、深さ0.08～0.26m、平均0.16mを測る。

各土坑の規模と主軸方位は第3表に記した。

重複 9号土坑は4号溝、11～13号土坑と1号竪穴建物、3・5号土坑は重複関係にある。また13号土坑は2基の土坑(東側を「13A」、西側のものを「13B」とする)の重複したものである。このうち3号土坑が5号土坑を切り、9号土坑が4号溝に切られ、11・12・13A・13B号土坑は1号竪穴建物に切られている他は、新旧関係を特定できなかった。

覆土 1～3・5・8号土坑は褐色土、4・6・9号土

坑は暗褐色土、7・10・13A・13B号土坑は黒褐色土、11号土坑は褐灰色土と灰褐色土、12号土坑は黒褐色土と橙色土で埋没している。これらの土壤にはローム粒・ブロックが含まれ、2号土坑には僅かな炭化物、6号土坑にはAs-B、1号竪穴建物と重複する11号土坑上位には焼土粒を含む。

構造 プランは1・3～5・7・11号土坑が楕円形、2・9号土坑が隅丸短冊形、6・8・10・13B号土坑が隅丸長方形、12号土坑が円形、13A号土坑は凸字形を呈する。

底面の形態は、1号土坑は舟底形、2・4・6・7・9～12・13A・13B号土坑が平底、3・5・8号土坑が尖底を呈している。

遺物 13(A・B)号土坑から杯(1)・甕(2)などの土師器片、1・2・4～7・9～12号土坑からは土師器片、2・4・6・10号土坑からは須恵器片の出土が見られた。この他6号土坑からは近世の瀬戸・美濃陶器碗の破片2点の出土が見られ、7号土坑から弥生土器の破片の出土も見られた。

所見 各土坑の明確な時期特定はできなかったが、遺構の重複関係から11・12・13A・13B号土坑は律令期以前の所産と判断される。また出土遺物から6号土坑は近世の所産の可能性があり、1・2・4・5・7・9号土坑は律令期以降の所産と認識される。この他プランが隅丸方形、隅丸長方形を呈する8・10号土坑はその形態から中・近世の可能性が想定される。

またこれらの土坑の掘削目的は特定できなかったが、8・10号土坑はその形態から推して、芋穴等の貯蔵穴の可能性が想定される。

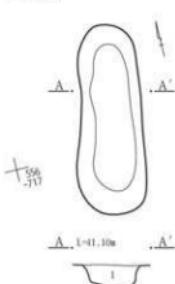
第3表 土坑一覧

番号	グリッド	規模(長径×短径×深さ)	主軸方位	プラン	底面形態	時期	重複関係	備考
1	539-714	0.78 × 0.48 × 0.09m	N22° W	楕円形	舟底形			
2	555-556-715-716	1.56 × 0.57 × 0.17m	N11° E	隅丸短冊形	平底			
3	551-552-704-705	1.13 × 0.97 × 0.17m	N24° E	楕円形	尖底	5号土坑を切る		
4	553-554-704	0.99 × 0.87 × 0.14m	N55° W	楕円形	平底			南東部1/3分0.05m落ち込む(舟底形)
5	550-551-704-705	0.750 × 0.94 × 0.13m	N17° E	楕円形か	尖底		3号土坑に切られる	
6	551-701	0.75 × 0.34 × 0.16m	N7° W	隅丸長方形	平底	近世		
7	554-555-703-704	1.25 × 0.93 × 0.18m	N69° E	楕円形	平底			中央部が0.04m深む(平底)
8	555-556-703-704	0.73 × 0.65 × 0.08m	N52° E	隅丸長方形	尖底	中近世か		中央部が0.03m深む(舟底形)
9	558-560-701-702	(1.73) × 0.48 × 0.08m	N22° E	楕円短冊形	平底		4号溝に切られる 5号溝と接する	
10	548-550-699-700	1.74 × 0.97 × 0.20m	N6°	隅丸長方形	平底	中近世か		
11	554-556-698-699	(1.38) × 1.25 × 0.23m	N30° W	楕円形か	平底	律令期	1号竪穴建物に切られ12号土坑を切る	東側一部が調査区外
12	554-698-699	(0.99) × (0.82) × 0.26m	N8°	ほぼ楕円形	平底	律令期	1号竪穴建物・11号土坑に切られる	東側一部が調査区外
13A	554-555-700-701	0.99 × 0.96 × 0.22m	N84° W	凸字形	平底	律令期	1号竪穴建物に切られる	東部落ち込む
13B	554-555-700-701	1.12 × 0.96 × 0.19m	N84° W	楕円長方形	平底	律令期	1号竪穴建物に切られる	

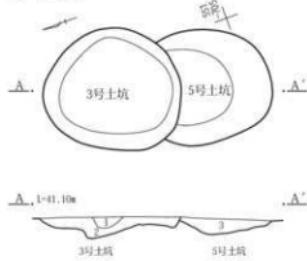
1号土坑



2号土坑



3・5号土坑



1号土坑A-A'

1 暗褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロック、ローム粒を多量に含む。
黒色ブロックを少量含む。やわらかい。

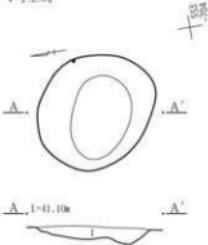
2号土坑A-A'

1 暗褐色土 (10YR4/4) ロームブロックを多量に含む。褐色粒、炭化
粒を僅か含む。

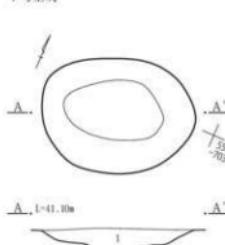
3・5号土坑A-A'

- 1 暗褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを少量、褐色粒を多量に含む。
(3号土坑)
- 2 暗褐色土 (7.5YR4/3) ロームブロックを多量に含む。(3号土坑)
- 3 暗褐色土 (7.5YR4/3) ロームブロックを多量に含む。褐色粒を僅か
含む。(5号土坑)

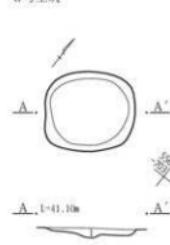
4号土坑



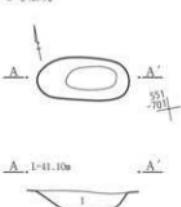
7号土坑



8号土坑



6号土坑



4号土坑A-A'

1 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロック、ローム粒、褐色粒を多量に含む。

6号土坑A-A'

1 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロック、褐色粒、As-S を含む。土器片出土。

7号土坑A-A'

1 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒、褐色粒を含む。弥生土器片出土。

8号土坑A-A'

1 暗褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを少量、褐色粒を多量に含む。



第9図 1～8号土坑

第3章 発見された遺構と遺物

9号土坑



9号土坑A-A'

- 1 喀褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロック、ローム粒を含む。径5mm程度の黒褐色ブロックを含む。焼土粒を僅か含む。

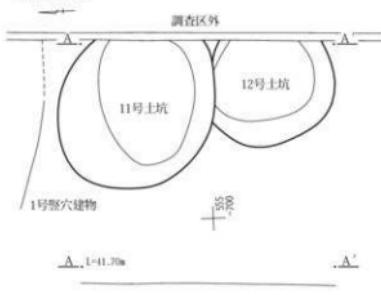
10号土坑



10号土坑A-A'

- 1 黒褐色土 (7.5YR3/1) 7号土坑に近い褐色粒を含む。焼土粒を僅か含む。

11・12号土坑



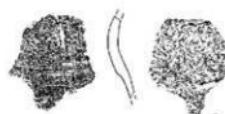
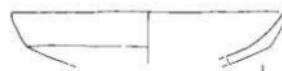
11・12号土坑A-A'

- 1 校庭盛土 (基本上層1層)
- 2 灰褐色土 (7.5YR5/1) 鉄分付着あり。炭化粒を僅か含む。(基本上層2層)
- 3 明褐色土 (7.5YR5/6) As-Bを多量に含む。鉄分、褐色粒を多量に含む。土器小片含む。(基本上層3層)
- 4 褐灰色土 (7.5YR4/1) ロームブロック、ローム粒、焼土粒を僅か含む。(11号土坑)
- 5 灰褐色土 (7.5YR4/2) 褐色ブロック、ロームブロックを含む。(11号土坑)
- 6 黑褐色土 (7.5YR2/2) ロームブロック、ローム粒を少量含む。(12号土坑)
- 7 棕褐色土 (7.5YR6/6) 大粒のロームブロックを多量に含む。(12号土坑)

13 A・B号土坑A-A'

- 1 黒褐色土 (7.5YR2/2) ロームブロック、ローム粒を少量含む。

13A・B号土坑



第10図 9～13A・B号土坑と13A・B号土坑出土遺物

4. 井戸(第11図、PL. 3)

概要 本調査区では1・2号井戸の2基の井戸を調査した。しかし、安全確保の観点から両井戸共に覆土中の掘削を止め完掘しなかったため、これらの全容を詳らかにすることはできなかった。

位置 1号井戸は調査区北端やや東寄りに位置し、2号井戸は南西部に位置している。

なお、所在グリッドは第4表に記した。

規模・主軸方位〔規模〕

(1号井戸)調査範囲: 0.93×0.25m 深さ: 0.55m以上

(2号井戸)径: 0.53×0.45m 深さ: 0.50m以上

〔主軸方位〕(1号井戸)不明 (2号井戸) N64°W

重複 1号井戸は単独である。

2号井戸は2号溝と接するが、新旧関係は特定できなかった。

覆土 1・2号井戸は共に黒褐色土で埋没している。

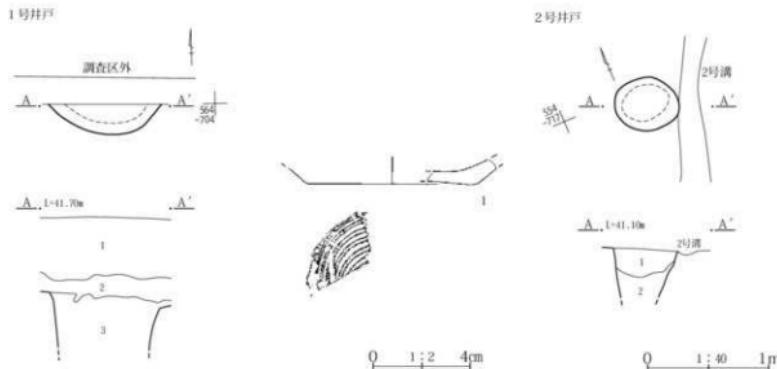
構造 上述のように1号井戸は多くが調査区外にあり、1・2号井戸は共に完掘されていないため、その構造を詳らかにすることはできない。

調査できた上位構造から推して、1号井戸は井筒形、2号井戸は擂鉢形を呈していたものと想定される。また2号井戸の深さは確認面から1m程度であったものと推定される。

くりかえしになるが、1・2号井戸は安全確保の点から掘削を途中で中止したため、底面形態や湧水層の確認はできなかった。

遺物 1号井戸からは須恵器片(1)と土師器片5点が出土したが、2号井戸からの出土遺物はなかった。

所見 1号井戸は出土遺物から推して律令期の所産と判断されるが、細かい時期特定には至らなかった。また2号井戸も時期特定には至らなかった。



1号井戸A-A'

- 1 校底盛土(基本上層1層)
- 2 褐褐色土(7.5YR2/2) 鉄分凝着あり。ローム粒を僅か含む。
- 3 黒褐色土(7.5YR3/1) 径10mm未満のロームブロック、焼土粒、褐色粒を僅か含む。土器片出土。

2号井戸A-A'

- 1 黒褐色土(7.5YR2/2) ローム粒、褐色粒を含む。やや粘性が強い。
- 2 黒褐色土(7.5YR2/2) 1層にロームブロック(大きいものは径20~30mm)を含む。

第11図 1・2号井戸と1号井戸出土遺物

第4表 井戸一覧

No.	グリッド	規模(長径×短径×深さ)	主軸方位	プラン	底面形態	時期	重複関係	備考
1	563・564-704・705	(0.93) × (0.25) × (0.55) m	不明	円形か	-	律令期か		北側大半が調査区外
2	553・554-715	0.53 × 0.45 × (0.50) m	N 64° W	楕円形	-	不特定	2号溝と接する	

5. 1号溝(第12図、PL. 4)

概要 本溝は流水の痕跡が見られる溝である。南側は削られ、失われている。

位置 調査区中・北部や西寄りに位置する。

553~561-707~715グリッドに所在する。

規模・方位 [規模]長さ: 10.49m

幅: 0.61~2.13m 深さ0.05m

[方位] N 48° E

重複 2・5・6号溝と重複するが、いずれに対しても本溝の方が新しい。

覆土 褐灰色土

構造 本溝は上述のように南側は失われているため、全容は詳らかでない。

本溝は直線的に走行するが、そのプランは未広がりを呈する。

遺存状態が悪いこともあり壁面は開いているが、底面は凹凸があり、水流のあったことが窺われる。南西方向に僅かに傾斜し、勾配率は0.43%でほぼ水平である。

遺物 本溝からは土師器片3点が出土したに過ぎず、図示すべきものもなかった。

所見 本溝からはビニールが出土しているため、その下限は昭和62(1987)年である可能性がある。その上限は不明であるが、昭和15(1940)年作製の地籍図に照らしても、該当する地境等は確認できない為に、かえって近世に上る可能性もある。

なお、同図によれば、本溝付近は新田郡宝泉村大字藤阿久字中道東12-2と16に跨っており、12-2と16の間に道路が通っている。本溝はこれに直行するように在るため、道路下を通して中道東16から同12-2への暗渠通水の効果を目的として掘削された可能性が考えられる。あるいは県立養護学校建設時の排水を目的として掘削したものである可能性もある。

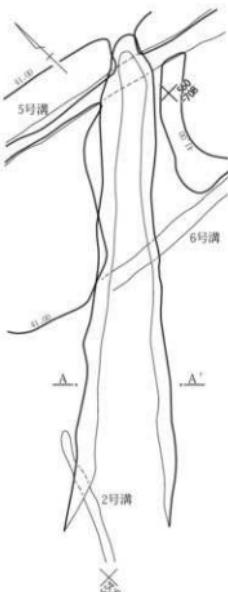
6. 2号溝(第13図、PL. 4)

概要 本溝は南側が調査区外に出ているため、全容は詳らかにできない。

位置 本溝は調査区南西部や東寄りに位置する。

549~556-714~717グリッドに所在する。

規模・主軸方位



1号溝A-A'

1 褐灰色土 (7.5YR5/1) ロームブロックを含む。細かい粒子を含む。粘性強い。

第12図 1号溝(下)と調査区周辺地籍図(上)

〔規模〕長さ：7.98m 幅：0.19～0.40m 深さ0.03～0.15m

〔方位〕北半部：N25°E 南半部：N18°E

重複 本溝は北部で1号溝に切られている。また中程で西側に2号井戸が接するが、新旧関係は特定できなかつた。

覆土 本調査区の遺構の覆土に多い暗褐色土で埋没している。

構造 本溝は南側が調査区外に出るため、全容は詳らかにできない。

本溝は調査区西部の中程に発し、僅かに屈曲するものの直線的な走行を呈して、おおよそ南南西方向に流下している。

その掘削形態は舟底形を呈し、その幅員は南に広くなっている。勾配は南に向うが、勾配率は2.44%ではほぼ平坦である。

遺物 本溝からは土師器片2点が出土したに過ぎず、図示すべきものもなく、時期特定にはいたらなかった。

所見 本溝の時期は、出土遺物、土層から想定することもできなかつた。また昭和15(1940)年作製の地籍図に照らしても、該当する地境等は確認できない。

また、本溝は通水の可能性は否定できないものの、その掘削目的を明らかにすることはできなかつた。

7.3・4・5号溝(第14図、PL. 5)

概要 3・4・5号溝は調査区北部を東西並走する本調査区の中では大型の溝群である。3・4号溝が東西両側、5号溝の西側が調査区外に出るため全容は詳らかでない。

位置 本溝は調査区北部に位置する。

(3号溝) 560～564-698～716グリッド

(4号溝) 559～564-698～717グリッド

(5号溝) 559～563-702～718グリッド

規模・主軸方位 〔規模〕

(3号溝)長さ：18.91m 幅：0.43～0.97m

深さ0.16～0.27m

(4号溝)長さ：19.66m 幅：0.50～0.76m

深さ0.05～0.23m

(5号溝)長さ：16.62m 幅：0.27～0.55m

深さ0.03～0.05m

〔方位〕



第13図 2号溝

(3号溝)中・東部：N79°W 西部：N73°W

(4号溝)N76°W

(5号溝)N76°W

重複 新旧関係は不特定だが、3号溝と4号溝は西端近くで重複する。また4号溝は9号土坑を切り、5号溝は9号土坑と重複し、1号溝に切られている。

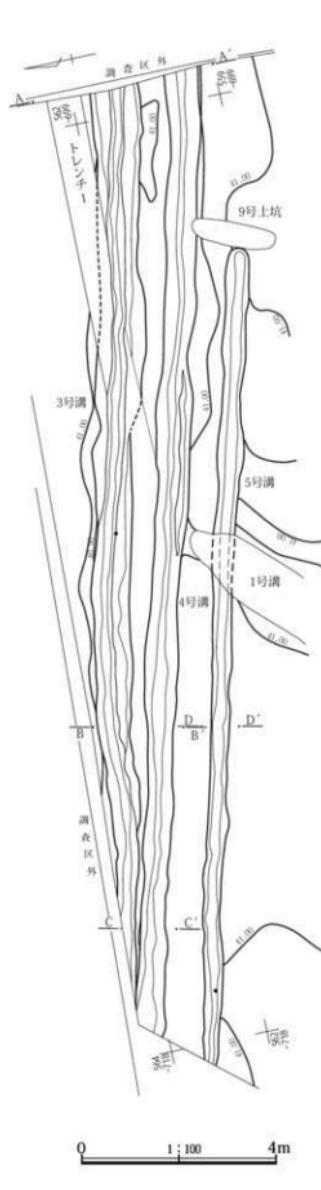
なお、3号溝と4号溝は中・東部で1.25mの間隔で並走するが、西部では3号溝が南に緩く折れて両溝は接する。また4号溝と5号溝は東部で1.1m、西部で1.25mの間隔を以ておむね並走している。

覆土 3号溝は暗褐色土、4号溝は褐灰色土と暗褐色土、5号溝は褐色土で埋没している。

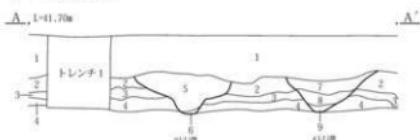
構造 上述のように3・4号溝が東西両側、5号溝は西側が調査区外に出るため、それぞれその一部を確認できただに過ぎない。

3号溝が西部で緩やかな屈曲を見せるものの、3・4・5号溝は全体として直線的な走行を見せる。

3～5号溝の掘削形態は、3号溝は薬研掘状で、4・5号溝は箱堀状を呈する。底面形態は、4・5号溝は舟

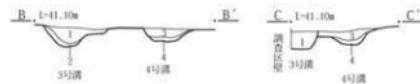


3・4号溝上層断面



3・4号溝A-A'

- 1 庭庭盛土(基本上層1層)
- 2 褐灰色土(7.5YR5/1) 鉄分付着あり。炭化粒を僅か含む。(基本上層2層)
- 3 黒色土(7.5YR2/1) 黏性の強い黒色粘層。ローム粒、褐色土を僅か含む。(基本上層4層)
- 4 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒を多量に含む。(基本上層5層)
- 5 暗褐色土(7.5YR3/4) 黄褐色ローム粒を含む。褐色土、炭化粒を僅か含む。(3号溝)
- 6 にぶい褐色土(7.5YR6/4) 灰白色ローム粒を多量に含む。やや黒色が強い。(3号溝)
- 7 明褐色土(7.5YR5/6) 砂質下面に鉄分付着。よく締まっている。(4号溝)
- 8 暗褐色土(7.5YR3/4) 黄褐色ローム粒、粒子を含む。(4号溝)
- 9 暗褐色土(7.5YR3/4) 黄褐色ロームブロック、ローム粒をやや多量に含む。(4号溝)



3・4号溝B-B'・C-C'

- 1 暗褐色土(7.5YR3/4) 黄褐色ローム粒を含む。褐色土、炭化粒を僅か含む。(3号溝)
- 2 にぶい褐色土(7.5YR6/4) 灰白色ローム粒を多量に含む。やや黒色が強い。(3号溝)
- 3 暗褐色土(7.5YR3/4) 黄褐色ローム粒、粒子を含む。(4号溝)
- 4 暗褐色土(7.5YR3/4) 黄褐色ロームブロック、黄褐色ローム粒をやや多量に含む。やや褐色が強い。(4号溝)

5号溝上層断面



5号溝D-D'

- 1 褐色土(7.5YR4/4) ロームブロック、ローム粒、軽石粒を多量に含む。



第14図 3・4・5号溝

底形を呈し、5号溝は平底場を呈する。3～5号溝の勾配は東に向うが、高倍率は3・4号溝が0.36%、5号溝は0.33%であり、ほぼ平坦である。

遺物 3号溝からは6点、4号溝で10点、5号溝で3点の土師器片、4号溝で1点の須恵器片が出土したものとの、図示すべきものもなく、時期特定に資するものではなかった。

所見 出土遺物から時期を特定することはできなかったが、3・4号溝はAs-B混土(基本3層)を切り、昭和15(1940)年の地籍図に該当する地境等が確認できなかつたことから、中・近世の所産として把握される。5号溝の時期も特定できなかつたが、3・4号溝に並走して掘削されている事から、同様の時期の所産として推定される。

また、3～5号溝の掘削目的は特定できなかつたが、通水の可能性と土地区画のための掘削の可能性等が考えられる。

8. 6号溝(第15図、PL. 5)

概要 本溝は幅狭の溝であり、西側が削平により失われている。

位置 本溝は調査区中部に位置する。

557～558-705～711グリッドに所在する。

規模・主軸方位

[規模]長さ: 6.66m 幅: 0.19～0.35m 深さ0.04m

[方位]東部: N90° 西部: N86° W

重複 本溝は西部で1号溝に切られている。

覆土 ロームを多く含む黒褐色土で埋没している。

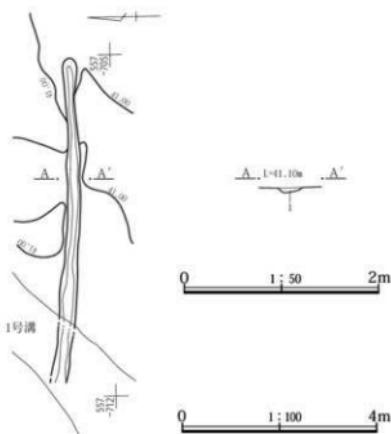
構造 上述のように本溝は西側が失われているため、全容は詳らかでないが、緩やかな弧状を以て走行する。

本溝の掘削形態は舟底状を呈する。勾配は殆どなく、底面は西寄りで最も高くなり、これに対し東端が1cm、西端が3cm低くなっている。

遺物 本溝からの出土遺物は得られなかった。

所見 本溝の時期を特定することはできなかつた。また昭和15(1940)年作製の地籍図に照らしても、該当する地境等は確認できていない。

また、本溝は通水の有無を確認することもできず、その掘削目的を明らかにすることはできなかつた。



6号溝A-A'
1 黒褐色土(7.5YR2/2) ロームブロック、ローム粒を多量に含む。
やや粘性あり。粒子細かい。

第15図 6号溝

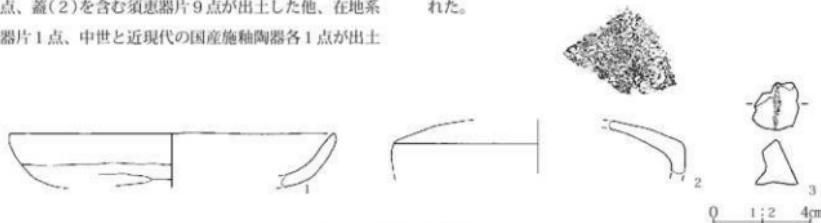
第5表 溝一覧

No.	グリッド	検出断面(m)			主軸方位	底面高低差(m)	底面形態	時期	重複関係	備考	
		長さ	幅	深さ							
1	553-561-707-715	10.49	0.61～2.13	0.03～0.05	N48° E	ほぼ平	波状形	～現代	2・5・6号溝と重複		
2	549-556-714-717	7.98	0.19～0.40	0.03～0.15	N25° E(北端より3.50m) 北～南0.12 N18° E(北端より12.50m)	舟底形		1号溝に切られる。 2号溝と接する。		南端は調査区外	
3	560-564-688-716	18.91	0.43～0.97	0.16～0.27	N26° W(東端より12.50m) N23° W(東内側出端まで)	ほぼ平	舟底形	中近世	4号溝と重複	東・西端は調査区外	
4	559-564-688-717	19.66	0.50～0.76	0.05～0.23	N26° W	ほぼ平	舟底形 (一部平底)	中近世	9号土坑を切る。 3号溝と重複。 5号溝と並走	東・西端は調査区外 4～5号間日々1.25m	
5	559-563-702-718	16.62	0.27～0.55	0.03～0.05	N75° W	ほぼ平	平底	中近世	9号土坑と重複。 1号溝に切られる。 4号溝と並走	西端は調査区外 5～6号間日々1.25m	
6	557-558-705-711	6.66	0.19～0.35	0.04	N90° (東端より2.50m) N86° W(東内側出端まで)	ほぼ平	舟底形		1号溝に切られる。		

9. 遺構外出土遺物(第16図、PL. 6)

遺構外中近世のAs-B混土中から杯(1)を含む土師器片55点、蓋(2)を含む須恵器片9点が出土した他、在地系土器片1点、中世と近現代の国産施釉陶器各1点が出土

した。また東壁際確認トレーンチからも火打石(3)、基本2層中からも須恵器片6点が出土した他、調査区内から上記以外にも土師器片7点、須恵器片16点の出土が得られた。



第16図 遺構外出土遺物

第2節まとめ

1. 調査のまとめ

本書を閉じるに当たり、本調査の概要を記したいと思う。

本調査区は圃場整備による削平を受けており、遺構の遺存状態は不良であった。上述のように本遺跡では竪穴建物1棟、土坑14基、井戸2基、溝6条を検出、調査した。

詳細は繰り返さないが、本遺跡の遺構はおむね律令期以降の所産と思料されるものであり、このうち奈良・平安時代に比定された遺構は竪穴建物1棟、土坑4基、井戸1基であり、中近世の所産と判断されるものには土坑2基、溝3条、近世の所産と判断されるものには土坑1基があった。この他検出された土坑7基、井戸1基、溝3条の時期は特定できなかった。

遺構の掘削目的について見ると、竪穴建物は住居あるいは庵屋としての使用が想定された。土坑の掘削意图は判然としないが2基はその形態から貯蔵目的に掘削された可能性が考慮された。また井戸は井戸としての飲用水等確保の機能を有していたものと思料されるが、上述のように安全確保の観点から完掘されず、従って湧水層の記録等も得られなかった。また溝は調査区北部を西北西—東南東方向に走行する3条が、降雨時の耕作地からの排水機能を有する可能性もあるが、いずれも用途の特定には至らなかった。

2. 条里遺構と歴史的推移

本遺跡に名を冠する条里制水田を確認することはできなかった。その確認の要素であるAs-Bも、調査区東部で混入する土壤が確認されただけで、純層としては確認されなかった。

また調査区東部でAs-B混入の明褐色土が確認されたため、同層下面に耕作により水田面と畦畔の凹凸が見られる、いわゆる擬似畦畔の存在も予想されたが、擬似畦畔は確認されなかった。従って、本調査区において条里制水田を確認することはできなかった。

加えて西高東低の地形と、東端で竪穴建物が確認されたことから、律令期、本調査区は水田耕作域ではなく、集落域あるいは畠地であったものと想定された。

一方、中世以降においては、As-B混土が示すように耕作が繰り返されたことが想定される。また明治18(1885)年測図の陸軍迅速図では、本遺跡付近は桑畑として記されており、集落は本遺跡より離れた位置に在る北東の藤阿久、南南西の由良、細谷等に営まれていたことが分かる。また近隣に環濠遺構等は確認されない。これらの点から、本遺跡付近は中世以来、耕作地とされてきたものと想定される。

しかしながら、各遺構が耕作地の中でどのような位置づけを以て掘削された遺構かは判断できなかった。また本遺跡の名称に係る条里制方眼を見出すことともできなかった。

第6表 遺物觀察表

1号堅穴建物		種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴			備考
掲図 Pl. No	Na			口	底	高		幅	厚	重	
第8図 Pl. 6	1	土師器 甕	床直 口縁部片	—	—	—	細砂粒/やや軟質/—	—	—	—	口縁部は内外面とも横ナデ。
第8図 Pl. 6	2	— 臼玉	床直 完形	長2.9 幅2.9	厚0.1 重12.2	—	滑石/—/—	—	—	—	表面は剥離面で構成されるが摩滅痕が広範囲に認められる。側面部は中央の張りは認められず全体的に滑らかであり覆横方向の擦痕が認められる。

13A・B号上坑

13A・B号上坑		種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴			備考
掲図 Pl. No	Na			口	底	高		幅	厚	重	
第10図 Pl. 6	1	土師器 杯	— 口縁部～体部片	—	11.2	高—	細砂粒/良好/明視	—	—	—	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。
第10図 Pl. 6	2	土師器 甕	— 口縁部下半～頸部片	—	—	高—	細砂粒/良好/細	—	—	—	外面は器面は剥落のため整形不明。内面は横ナデ。

1号井戸

1号井戸		種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴			備考
掲図 Pl. No	Na			口	底	高		幅	厚	重	
第11図 Pl. 6	1	須恵器 碗	— 底部～体部片	—	7	高—	細砂粒/還元焰/—	—	—	—	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。

遺構外沿土遺物

遺構外沿土遺物		種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴			備考
掲図 Pl. No	Na			口	底	高		幅	厚	重	
第16図 Pl. 6	1	土師器 杯	— 口縁部～体部片	—	13.3	高—	細砂粒/良好/明視	—	—	—	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。
第16図 Pl. 6	2	須恵器 長鋸齒	— 刺部上位片	—	12	高—	細砂粒/還元焰/焰 灰	—	—	—	ロクロ整形、回転方向不明。
第16図 Pl. 6	3	— 火打石	— 完形	長2.0 幅1.9	厚1.8 重7.4	— —	石英/—/—	—	—	—	綫上につぶれ痕が集中する。全体的に剥離面で構成され斜片を素材とする可能性が高い。

第7表 古墳～平安時代土器類非掲載遺物集計表

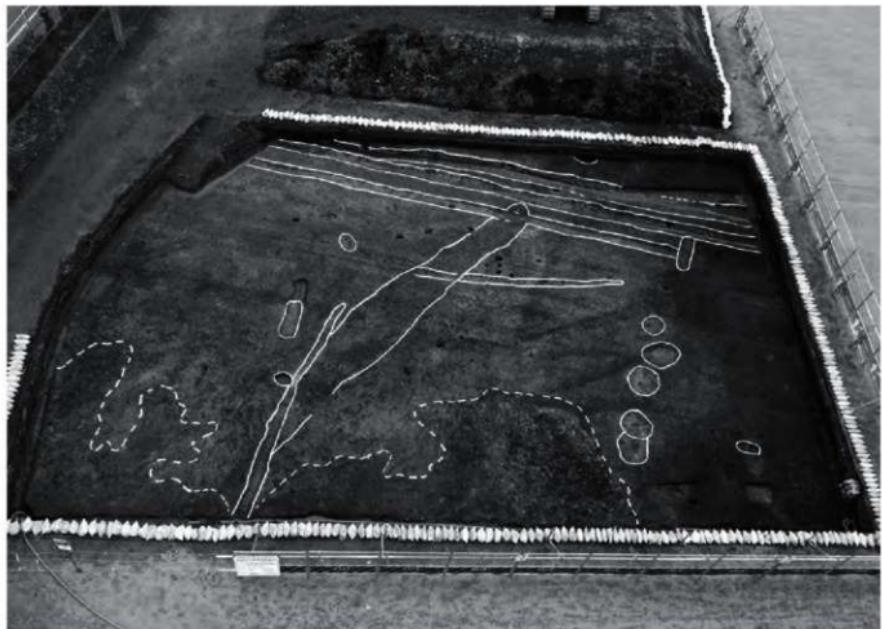
区 域	層位 ・面	遺構番号	土器部						須恵器					
			小型製品 点数	中型製品 点数	大型製品 点数	不明 点数	小型製品 点数	中型製品 点数	大型製品 点数	不明 点数	点数	重量	点数	重量
1		堅穴建物	7	7	—	7	41	—	1	5	—	—	3	3
1		上坑	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—	—	—
2		上坑	—	—	—	—	1	4	—	1	1	—	—	—
4		上坑	1	1	—	—	1	1	—	—	—	—	1	7
5		上坑	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—	—	—
6		上坑	—	—	—	—	11	13	—	—	—	—	5	2
7		上坑	—	—	—	—	1	9	—	—	—	—	—	—
9		上坑	—	—	—	—	3	8	—	—	—	—	—	—
10		上坑	—	—	—	—	4	24	—	1	8	—	—	—
11		上坑	—	—	—	—	1	7	—	—	—	—	—	—
12		上坑	—	—	—	—	1	12	—	—	—	—	—	—
13		上坑	2	6	—	—	2	3	—	—	—	—	—	—
1		溝	2	1	—	—	1	3	—	—	—	—	1	1
2		溝	—	—	—	—	2	3	—	—	—	—	1	1
3		溝	—	—	—	—	6	20	—	—	—	—	—	—
4		溝	2	1	—	—	8	18	—	1	2	—	—	—
5		溝	—	—	—	—	3	11	—	—	—	—	—	—
1	井戸	—	2	9	—	—	3	11	—	—	—	—	1	7
B混		—	5	17	—	—	50	150	—	—	—	—	5	47
2層		—	—	—	—	—	—	—	1	6	—	—	5	30
東壁トレンチ		—	—	—	—	—	4	16	—	—	—	—	4	14
調査区		—	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—	1	1
表土		—	—	—	—	—	1	6	—	—	—	—	—	—
試掘トレンチ2		—	1	6	—	—	—	—	—	—	—	—	1	6
計		—	22	48	0	0	113	375	0	0	5	22	0	0
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	67
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27	68

第3章 発見された遺構と遺物

第8表 中・近世陶磁器類非掲載遺物集計表

区 域	層位・面 積	遺構番号	番号	種類	器種	残存率	特徴	備考	中世		近世		近代		時 期 不 詳			
									国産施釉 陶器		国産施釉 陶器		陶磁器		土器類			
									点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
覆土	1	溝	1	生産地不 詳陶器	不明	小破片	小片のため器種不明	近現代					1.0	1.0				
覆土	1	溝	2	生産地不 詳陶器	碗か	口縁部破 片	灰釉系の透明釉	近現代					1.0	2.4				
覆土	1	溝	3	生産地不 詳陶器	不明	小破片	小片のため器種不明。 灰釉系透明釉で細かな 貫入がある。内面は輔 はげか。	近現代					1.0	1.1				
覆土	3	溝	4	生産地不 詳陶器	皿か	高台部破 片	高台に細かな剥離。	近現代					1.0	3.0				
覆土	3	溝	5	瀬戸・美 濃陶器	不明	小破片	小片のため器種不明	江戸時代か					1.0	1.0				
覆土	3	溝	6	瀬戸・美 濃陶器	碗	口縁部から体部破 片	口縁部下外面上に4条の 螺旋状凹線が巡る。内 面から口縁部外側には灰 釉。体部以下外側には褐 色の鉄釉。灰釉に黒い 貫入がある。	19世紀中頃 腰錆碗					1.0	9.9				
覆土	3	溝	7	在地系土 器	鍋か焰炉	口縁部破 片	口縁部内面はヨコナデ、 器面は炭素吸着。	取り上げNo.1 年代不明							1.0	10.9		
一括	4	土坑	8	瀬戸・美 濃陶器	碗	口縁部破 片	口縁部内面は褐色の 鉄釉。口縁端部付近の 内外面に葛灰釉を掛け 掛け。	18-19世紀 尾呂碗					1.0	9.2				
覆土	4	溝	9	生産地不 詳陶器	不明	小破片	小片のため器種不明。 灰釉系透明釉で細かな 貫入がある。	近現代					1.0	1.0				
覆土	5	溝	10	生産地不 詳陶器	碗か	小破片	小片のため器種不明。 外面は褐色鉄釉、内面 は透明釉。	近現代					1.0	2.3				
一括	2	土坑	11	在地系土 器	不明	体部小破 片	摩耗している。	年代不明							1.0	11.0		
	5	溝	12	肥前磁器	碗	口縁部から体部破 片	内外面に透明釉、染付 窯。	取り上げNo.1 江戸時代			1.0	13.4						
一括	6	土坑	13	瀬戸・美 濃陶器	碗	口縁部破 片	内外面に黒色鉄釉。	17世紀 天目窯					1.0	6.0				
一括	6	土坑	14	瀬戸・美 濃陶器	碗か	破片	外面は褐色鉄釉、内面 は灰釉。	江戸時代					1.0	3.5				
2層 一括		15	在地系土 器	不明	口縁部破 片か	器面は炭素吸着。	年代不明								1.0	9.1		
B混 3層		16	生産地不 詳陶器	不明	小破片	小片のため器種不明。 外面は灰釉系透明釉で 細かな貫入がある。内 面は無釉。	近現代							1.0	2.2			
B混		17	生産地不 詳陶器	不明	体部? 小 破片	小片のため器種不明。 外面は灰釉、内面は無 釉。	中世	1.0	1.2	1.0	13.4	5.0	29.6	7.0	13.0	3.0	31.0	
		計							1.0	1.2	1.0	13.4	5.0	29.6	7.0	13.0	3.0	31.0

写 真 図 版



1 調査区全景(上側北)



2 1号竪穴建物 A-A' 土層断面(南より)



3 1号竪穴建物出土遺物



4 1号竪穴建物全景(南より)



5 1号竪穴建物作業風景(南より)



1 1号土坑全景(北東より)



2 2号土坑全景(北東より)



3 3・5号土坑A-A'土層断面(西より)



4 3・5号土坑全景(東より)



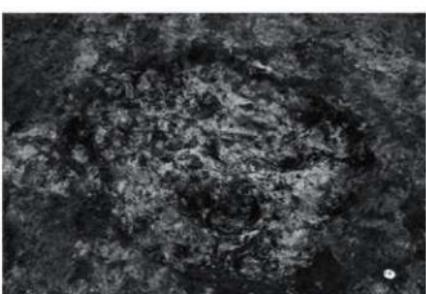
5 4号土坑全景(南東より)



6 6号土坑全景(北より)



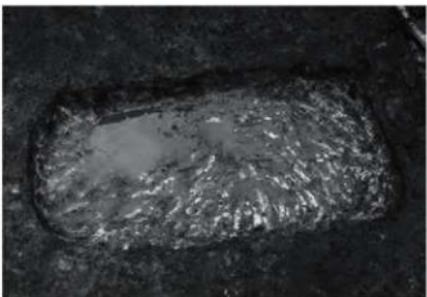
7 7号土坑全景(南東より)



8 8号土坑全景(南より)



1 9号土坑全景(北西より)



2 10号土坑全景(西より)



3 11号土坑A-A' 土層断面(西より)



4 12号土坑A-A' 土層断面(西より)



5 11・12号土坑全景(南より)



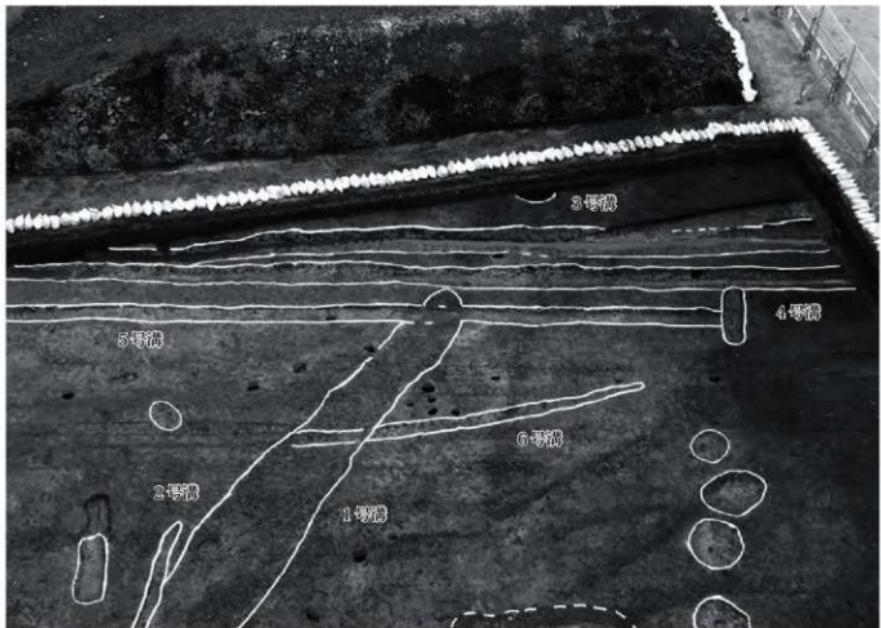
6 13A・B号土坑全景(南より)



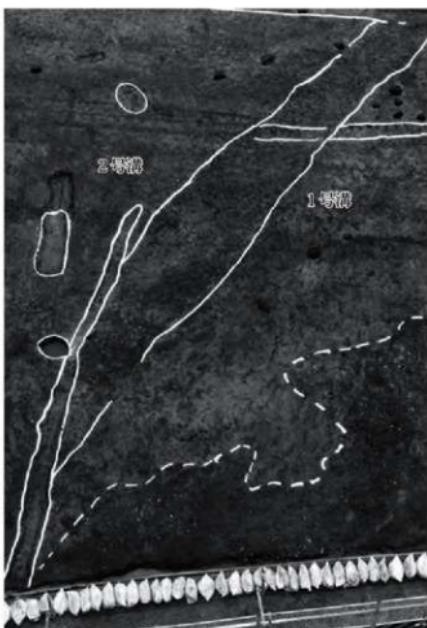
7 1号井戸A-A' 土層断面(南より)



8 2号井戸全景(南より)



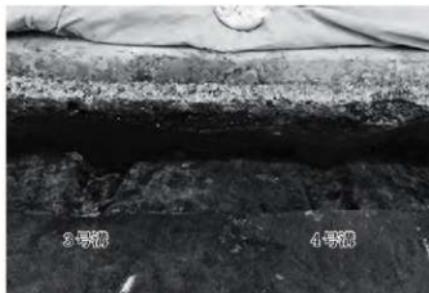
1 ～ 6 号溝全景(上側北)



2 1・2号溝全景(上側北)



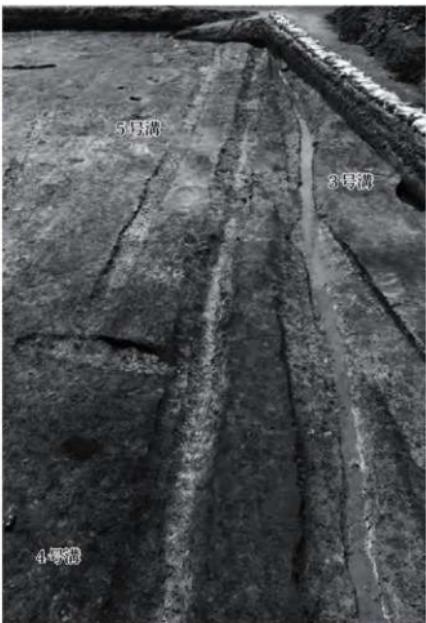
3 2号溝全景(北より)



1 3・4号溝A-A'土層断面(西より)



2 5号溝D-D'土層断面(西より)



3 3・4・5号溝全景(南東より)



4 6号溝全景(南西より)



5 6号溝A-A'土層断面(南より)



6 3・4・5号溝作業風景(東より)

PL.6

1号竖穴建物



13A・B号土坑



1号井戸



遺構外出土遺物



報 告 書 抄 錄

書名ふりがな	じょうりせいすいでんそうていち
書名	条里制水田想定地
副書名	県立太田高等特別支援学校普通科棟（重複障害）増築建築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書
卷次	一
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	662
編著者名	石守晃
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20200225
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	じょうりせいすいでんそうていち
遺跡名	条里制水田想定地
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしふじあぐちょう
遺跡所在地	群馬県太田市藤阿久町
市町村コード	102059
遺跡番号	T0431
北緯（世界測地系）	361700.6
東経（世界測地系）	1392128.3
調査期間	20180601-20180630
調査面積	505.00
調査原因	学校建設
種別	集落
主な時代	古代/中世/近世
遺跡概要	古代：竪穴建物1+土坑4+井戸1-土器／中・近世：土坑2+溝3-陶磁器／近世：土坑1／時期不特定：土坑7+井戸1+溝3
特記事項	なし
要約	本遺跡は蛇川右岸の台地上に立地する。圃場整備で削平されており、遺構の遺存状態は不良であった。奈良・平安時代の竪穴建物1棟、古代・中世・近世の土坑、井戸、溝等を調査したが、これらの中に遺跡名である条里制に係る遺構は確認できなかった。

公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第662集

条里制水田想定地

県立太田高等特別支援学校普通科棟(重複障害)
増築建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和2(2020)年2月21日 印刷
令和2(2020)年2月25日 発行

編集・発行／公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下猶田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／ジャーナル印刷株式会社

